

2026 年度

大学院学生便覧

東北工業大学大学院

目 次

大学院学年暦

建学の精神・大学院の目的及びAEGGポリシー	1
◇建学の精神	1
◇大学院の目的	1
◇大学院のAEGGポリシー	1
◇課程の目的	2
◇課程の修了要件 (大学院学則第21条～第21条の2)	2

博士(前期)課程履修案内 令和8年度入学生対象 全 研 究 科 共 通

◇単位制について	3
◇セメスター制と学期について	3
◇授業科目の区分	3
◇履修について	3
◇試験・成績評価について	4
◇先取履修による単位の認定について	4
◇【共通科目】インターンシップ受講および評価について	5
◇【情報科目】インターンシップ受講および評価について	6

博士(前期)課程履修案内 令和8年度入学生対象 工 学 研 究 科

◇科目ナンバリングについて	7
◇電気電子システム工学専攻教育課程表	8
◇情報通信工学専攻教育課程表	9
◇都市工学専攻教育課程表	10
◇バイオ情報・応用化学専攻教育課程表	11

博士(前期)課程履修案内 令和8年度入学生対象 建 築 学 研 究 科

◇科目ナンバリングについて	13
◇建築学専攻教育課程表	14

博士(前期)課程履修案内 令和8年度入学生対象 ライフデザイン学研究科

◇科目ナンバリングについて	15
◇デザイン工学専攻教育課程表	16

教 育 職 員 課 程

◇本学の理念並びに教員養成の目的と目標	17
◇教職課程の履修について	18

各 種 規 定 等 ・ 教 員 一 覧

学位論文について	19
◇修士学位論文について	19
◇修士学位設計について	21
◇修士学位制作について	24
◇博士学位論文について	28
東北工業大学学位規程(抄)	33
教務補助員(TA)について	36
リサーチ・アシスタント(RA)について	36
大学院長期履修制度について	36
奨学金制度について	37
留学プログラム・海外奨学金について	38
大学院科目等履修生について	39
大学院研究生について	40
大学院授業担当教員一覧	41
◇電気電子システム工学専攻	41
◇情報通信工学専攻	42
◇都市工学専攻	43
◇バイオ情報・応用化学専攻	44
◇建築学専攻	45
◇デザイン工学専攻	46
大学院分野一覧表	47

修 了 後 の 取 得 資 格

修了後の取得資格	49
----------	----

令和8（2026）年度 東北工業大学大学院 学年暦

前期授業日
後期授業日
休業日
終日休講日
授業等予備日
※赤字記載は代替授業日
※学年暦が変更となる場合は、ポータルサイトにてお知らせいたします。

2026年														2027年															
4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月							
1	水		1	金		1	水	((院)春季学内推薦入試)	1	土		1	木		1	火		1	金	元日	1	月		1	月				
2	木		2	土		2	木	((院)春季学内推薦入試) ((院)秋入学入試) ((院)博士後期秋入学入試)	2	日		2	金		2	水		2	土		2	火	合同企業研究セミナー	2	火				
3	金	入学式	3	日	憲法記念日	3	金	((院)春季学内推薦入試)	3	月		3	土		3	火	文化の日	3	日		3	水	合同企業研究セミナー	3	水				
4	土		4	月	みどりの日	4	土		4	火	夏季休業開始	4	日		4	水		4	月		4	木	(一般選抜A日程)	4	木				
5	日		5	火	こどもの日	5	日		5	水		5	月		5	木		5	火	冬季休業終了	5	金	(一般選抜A日程)	5	金	(一般選抜B日程)			
6	月	CAMPUS OPEN DAY	6	水	振替休日	6	土	(保護者懇談会)	6	月	((院)春季学内推薦入試)	6	火		6	金		6	水		6	土		6	土				
7	火	前期オリエンテーション①	7	木	水曜代替授業 ((院)早期卒秋入学入試)	7	日	(保護者懇談会)	7	火		7	水		7	土	(保護者懇談会(仙台))	7	月		7	日		7	日				
8	水	前期オリエンテーション②	8	金	((院)早期卒秋入学入試)	8	月		8	水		8	土		8	日		8	火		8	月		8	月				
9	木	前期オリエンテーション③	9	土		9	火		9	木		9	日		9	金	(スポーツ大会) 終日休講	9	月		9	土		9	火	後期成績発表	9	火	修了者発表
10	金	前期オリエンテーション④	10	日		10	水		10	金		10	土		10	火	大学祭 (秋のオープンキャンパス)	10	水		10	日		10	水				
11	土		11	月	((院)早期卒秋入学入試)	11	木		11	土	授業等予備日	11	日		11	火	山の日	11	月	成人の日	11	土	建国記念の日	11	木				
12	日		12	火		12	金		12	日		12	月		12	水	スポーツの日	12	土		12	火	月曜代替授業 修士・博士学位論文 題目変更届提出期限	12	金				
13	月	前期授業開始	13	水		13	土	(保護者懇談会(仙台))	13	月		13	火		13	金		13	日		13	土		13	土				
14	火		14	木		14	日	(保護者懇談会)	14	火		14	水		14	土	(AOVA1期・女子選抜) 終日休講	14	月		14	火		14	日				
15	水		15	金		15	月		15	水		15	土		15	日	月曜代替授業	15	火		15	金		15	月	修士学位論文提出期限			
16	木		16	土	インターンシップ 合同企業研究セミナー	16	火		16	木		16	日		16	金		16	月		16	土	(大学入学共通テスト)	16	火				
17	金		17	日		17	水		17	金		17	土		17	火		17	月		17	日	(大学入学共通テスト)	17	水				
18	土		18	月		18	木		18	土		18	日		18	火		18	水		18	金	(公募・AOVA2期選抜) 終日休講	18	木				
19	日		19	火		19	金		19	日		19	月		19	火	創立記念日	19	水	(指定校等選抜) 終日休講	19	土		19	金	博士学位論文 (仮製本)提出期限			
20	月		20	水		20	土	(保護者懇談会)	20	月	海の日	20	火		20	金	修士・博士学位論文 題目届提出期限	20	日		20	月		20	土				
21	火		21	木		21	日	(保護者懇談会)	21	火	前期成績発表	21	水		21	土	敬老の日	21	月		21	火		21	日	春分の日			
22	水		22	金		22	月		22	水		22	土		22	日	国民の休日	22	火		22	金		22	月	振替休日			
23	木		23	土		23	火		23	木		23	日		23	火	秋分の日	23	水		23	土		23	火	天皇誕生日			
24	金		24	日		24	水		24	金		24	月		24	土	夏季休業終了	24	火		24	日		24	水				
25	土		25	月		25	木		25	土	(オープンキャンパス)	25	日		25	火	後期オリエンテーション	25	水		25	金		25	木				
26	日		26	火		26	金		26	日	(オープンキャンパス)	26	月		26	火		26	水		26	土		26	金				
27	月		27	水		27	土	(オープンキャンパス)	27	月		27	火		27	日		27	月		27	水		27	土				
28	火		28	木		28	日		28	火	前期授業終了	28	水		28	土		28	月		28	火		28	日				
29	水	昭和の日	29	金		29	月		29	土		29	日		29	火		29	水		29	金		29	月				
30	木		30	土		30	火		30	日		30	月		30	火		30	水		30	土		30	火				
			31	日		31	金		31	月		31	土		31	日		31	月		31	火		31	水	博士学位論文 (本製本)提出期限			

建学の精神・大学院の目的及び AEGG ポリシー

〈建学の精神〉

わが国、特に東北地方の産業界で指導的役割を担う高度の技術者を養成する。

〈大学院の目的〉

本大学院は、建学の精神に則り、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、ひろく文化の発展に寄与することを目的とする。また、その目的実現のために、人間・環境を重視した豊かな生活のための学問を創造し、社会との真の融合を目指すことにより、地域の文化と産業の発展に寄与するとともに、その中心となって貢献することのできる高度の専門知識と問題解決能力を備えた優れた人材を育成する。

〈大学院の AEGG ポリシー〉

学位授与方針 Diploma Policy (Graduation Policy)	本学大学院は、東北地方を中心とした地域社会から国際社会に及ぶ広範な領域において、持続可能な社会や生活文化の実現に寄与する科学技術、環境技術、産業、生活、芸術文化にかかわる高度な専門性と卓越した創造性、統合的能力および国際理解力を有する技術者・研究者・デザイナーの能力を身に付け、所定の在学期間・修得単位数・論文審査等の要件を満たした者に、修士または博士の学位を授与する。
大学院生の指導方針 Guidance Policy	本学大学院は、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を学生に達成させるためには、正課外活動を通じての指導が重要であるとの認識に基づき、学会発表をはじめとする研究成果の社会への公表や、実社会での多様な人々との議論や協働の、機会創出に努める。
教育課程の編成 ・実施の方針 Curriculum Policy (Education Policy)	本学大学院は、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を学生に身に付けさせるため、論文作成にあたり必要となる専門分野体系の理解や文献分析能力を醸成する研修科目を必修として配置し、専門性の向上をはかるとともに幅広い学識を涵養する授業を適切に組み合わせて、体系的な教育課程を編成する。
入学者受入れの方針 Admission Policy	<p>【工学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 幅広い工学分野の専門知識の修得が可能な基礎学力を有する人。(学力)2. 高度な専門的知識・技術修得に強い意欲を持ち、課題解決に積極的に取り組む人。(勉学姿勢)3. 高い倫理観を有し、専門知識を踏まえて地域社会から国際社会において社会貢献に熱意を持つ人。(社会人としての資質、社会貢献への姿勢) <p>【建築学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 幅広い建築学分野の専門知識の修得が可能な基礎学力と総合的な判断力を有する人。(学力)2. 建築学に関する専門的知識・技能を深化させ、自らが得意とする専門領域における知識をさらに高めようとする強い意欲と、大学院で学ぶ目的意識を有している人。(勉学姿勢)3. 高い倫理観を有し、専門知識を踏まえて地域社会から国際社会において社会貢献に熱意を持ち、持続可能な社会の発展に貢献できる人。(社会人としての資質、社会貢献への姿勢) <p>【ライフデザイン学研究科】</p> <ol style="list-style-type: none">1. 幅広いライフデザイン学分野の専門知識の修得が可能な基礎学力と総合的な判断力を有する人。(学力)2. 専門分野において多様な活動実績や秀でた能力を有する人。(実践力)3. 高度な専門的知識・技術ならびに技能修得に強い意欲を持ち、目的意識が明確な人。(勉学姿勢)4. 高い倫理観を有し、専門知識を踏まえて地域社会から国際社会において社会貢献に熱意を持つ人。(社会人としての資質、社会貢献への姿勢)

〈課程の目的〉

博士課程を前期2年の課程（博士(前期)課程）及び後期3年の課程（博士(後期)課程）に区分する。

1. 博士(前期)課程

◆工学研究科

広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を有する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

◆建築学研究科

広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度で専門的な知識・技術を要する職業等に必要の能力を養うことを目的とする。

◆ライフデザイン学研究科

広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度に専門的な業務に従事するのに必要の思考力と実践力を養うことを目的とする。

2. 博士(後期)課程

◆工学研究科

専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うために必要な、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要の高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

◆建築学研究科

専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うために必要な、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要の研究能力、高い倫理観及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

◆ライフデザイン学研究科

専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うために必要な、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

〈課程の修了要件〉（大学院学則第21条～第21条の2）

1. 博士(前期)課程

(1) 本大学院研究科の博士(前期)課程に2年以上在学し、専攻科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な指導を受け、修士学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格したことをもって課程を修了した者には、次の学位を授与する。

研究科	専攻	学位
工学研究科	電気電子システム工学専攻	修士(工学)
	情報通信工学専攻	
	都市工学専攻	
	バイオ情報・応用化学専攻	
建築学研究科	建築学専攻	修士(工学)又は修士(建築学)
ライフデザイン学研究科	デザイン工学専攻	修士(デザイン工学)

(2) 在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者と大学院教授会において認めた場合には、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

(3) 大学院教授会が適当と認めるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士学位論文の審査に代えることができる。

2. 博士(後期)課程

(1) 本大学院研究科の博士(後期)課程に3年以上在学し、かつ、必要な研究指導を受け、博士学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格したことをもって課程を修了した者には、次の学位を授与する。

研究科	専攻	学位
工学研究科	電気電子システム工学専攻	博士(工学)
	情報通信工学専攻	
	都市工学専攻	
	バイオ情報・応用化学専攻	
建築学研究科	建築学専攻	博士(工学)又は博士(建築学)
ライフデザイン学研究科	デザイン工学専攻	博士(デザイン工学)

(2) 在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者と大学院教授会において認めた場合には、1年（2年未満の在学期間をもって修士課程又は博士(前期)課程を修了した者にあつては、当該在学期間を含めて3年）以上在学すれば足りるものとする。

博士(前期)課程 履修案内
令和8年度 入学生対象
全研究科共通

博士(前期)課程 履修案内

令和8年度 入学生対象

◇ 単位制について

本学では「単位制」を採用しています。

単位制とは、授業科目ごとに一定の基準による単位数が決められていて、その授業科目を所定の時間履修し、試験に合格するとその授業科目に決められている単位が修得できるという制度です。博士(前期)課程の授業科目および単位数は、各専攻の教育課程表のとおりとします。1単位の履修時間は、15時間から30時間までの範囲の授業をもって構成しています。

◇ セメスター制と学期について

大学院の1年間は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わりますが、本学では半年を前期、残りの半年を後期とするセメスター制を採用しています。各授業科目は1セメスター14週にわたる期間内で終わります。

各セメスターの始めに履修登録を行い、授業を受け、各学期の終わりに試験を受けます。試験に合格すれば単位が修得できます。

◇ 授業科目の区分

授業科目は、その内容によって、次のように分けられています。

科目区分	必修/選択	内 容	
研修科目	必修	修士論文作成に必要な指導を施す前に求められる専門分野体系の理解や文献分析能力などを醸成する授業です。	演習科目
専門科目	選択	専攻独自に開設される授業です。	講義科目
共通科目	選択必修	研究者としての基礎的な素養を身につけるために開設される授業です。	講義科目 または 演習科目
情報科目	選択必修	工学のあらゆる専門分野に共通して必要な情報処理・活用能力を身につけるために開設される授業です。	講義科目 または 演習科目
共通科目 I	選択	専門科目とは区別される専攻独自の授業または幾つかの専攻間で共通して開設される授業です。	講義科目 または 演習科目
共通科目 II	選択	全専攻で共通して開設される授業です。	講義科目
関連科目	選択	研究科における他専攻の授業科目、他大学院の授業科目、大学院教授会において関連科目と認めたものです。	

◇ 履修について

1. 指導教員及び科目の決定

- (1) 自分の研究科目・研究テーマにあわせて、修士論文作成等の指導を受ける指導教員を決めます。
- (2) 原則として所属している専攻の教育課程表に示されている開講時期に従って30単位以上履修して下さい。

- (3) 修了に必要な 30 単位のうち、研修科目の工学研究科・建築学研究科 8 単位、ライフデザイン学研究科 6 単位は必修です。
- (4) 関連科目は、あわせて 10 単位まで修得できます。他大学院の講義を受講する場合は、学生サポートオフィスで別途申請して下さい。
- (5) 関連科目として認められない科目を履修する場合は、自由聴講科目として履修を認める場合があります。ただし、修了単位には、含まれません。

2. 履修科目の登録

履修科目の登録は Web 上で行います。

指定された期間内に各自行ってください。(履修登録期間については、別途ポータルサイトでお知らせします。)

3. 特別な届出が必要となる科目

以下のような科目は、通常の履修登録ができませんので、窓口で所定の届出用紙を受領し、手続きを行ってください。

(1) 関連科目

- ・本学大学院における他専攻の授業科目
- ・他大学院の授業科目
- ・大学院教授会において関連科目と認めたもの

(2) インターンシップ (5 ページを参照してください。)

企業・団体等において就業体験をし、受け入れ先からの評価と学生の研修レポートおよび報告書を総合的に判断して評価を行います。詳細等については、指導教員に相談してください。

(3) 情報系インターンシップ (工学研究科・建築学研究科のみ) (6 ページを参照してください。)

企業・団体等において就業体験をし、受け入れ先からの評価と学生の研修レポートおよび報告書を総合的に判断して評価を行います。詳細等については、別途お知らせします。

(4) 建築学研究公開 I・II (建築学専攻のみ)

詳細等については、指導教員に相談してください。

(5) 社会価値と地域共創 (デザイン工学専攻のみ)

詳細等については、指導教員に相談してください。

4. 履修科目の変更・取消

原則として、履修登録期間後の履修科目変更や取消は認めません。やむを得ず変更・取消をする場合は、授業担当教員へ申し出るとともに、窓口で手続きをしてください。

◇ 試験・成績評価について

- (1) 試験は、原則として各学期末に行われますが、科目によっては、レポート等をもって試験に代えることがあります。
- (2) 試験等において合格した科目には、所定の単位が与えられます。既修得単位の取り消しおよび成績の更新はできません。
- (3) 成績は、前期及び後期の成績発表日に発表されるので、必ず本人が確認してください。

◇ 先取履修による単位の認定について

本学学部 4 年生に在学中、先取履修で修得した単位は 15 単位を超えない範囲で、修了に必要な単位として認定することができます。

◇【共通科目】 インターンシップ受講および評価について

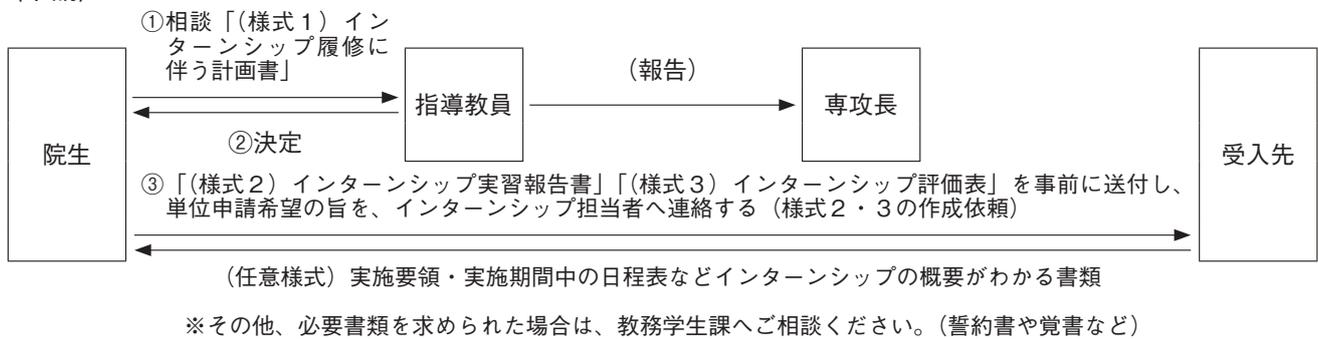
企業・団体等において就業体験をし、受け入れ先からの評価と学生の研修レポートおよび報告等を総合的に判断して評価を行います。詳細については、指導教員と相談してください。

○単位認定および評価方法

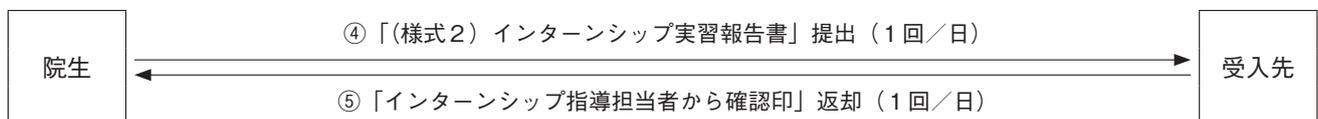
- (1) 単位認定は、学生による自己申請に基づくことを原則とします。
- (2) 単位認定希望者は、所定の申請用紙をポータルサイトからダウンロードし、必要事項を記入して、指導教員へ提出してください。
- (3) 全ての手続きが、前期は7月末まで、後期は1月末までに間に合うよう指導教員と相談のうえ、余裕をもって申請してください。
- (4) 当科目は認定評価です。

〈大学院〉 インターンシップの流れ

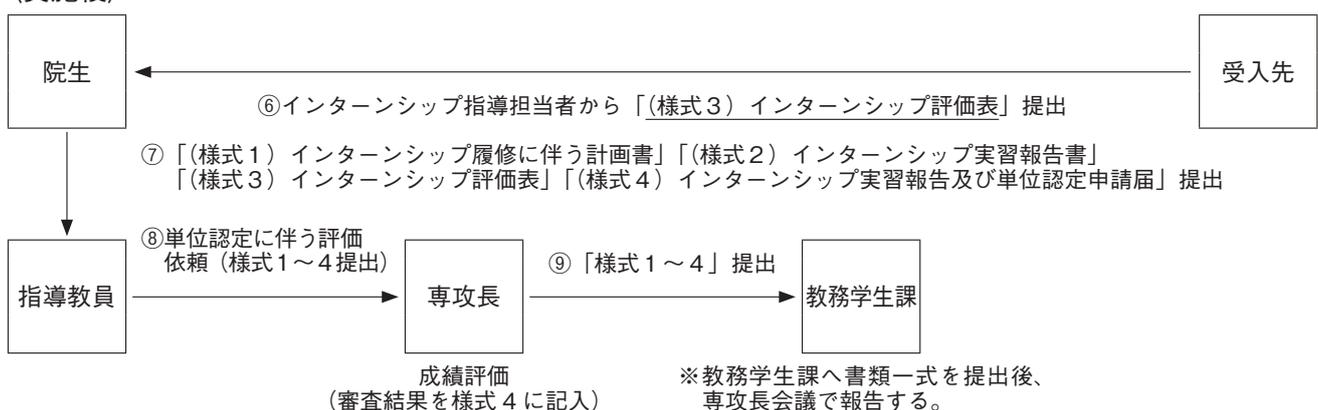
〈申請〉



〈実施中〉



〈実施後〉



〈様式について〉

- ・様式1：インターンシップ履修に伴う計画書(指導教員署名・捺印必要)
- ・様式2：インターンシップ実習報告書(受入先確認印必要)
- ・様式3：インターンシップ評価表(受入先報告責任者署名必要)
- ・様式4：インターンシップ実習報告及び単位認定申請届(専攻長署名・捺印必要)

〈留意事項〉

- ・2年間のうちいつでも申請可
- ・「誓約書」と「覚書」は、各専攻で必要な場合に作成

◇【情報科目】情報系インターンシップ受講および評価について

企業・団体等において就業体験をし、受け入れ先からの評価と学生の研修レポートおよび報告等を総合的に判断して評価を行います。参加可能な企業等や日程は、別途お知らせいたします。

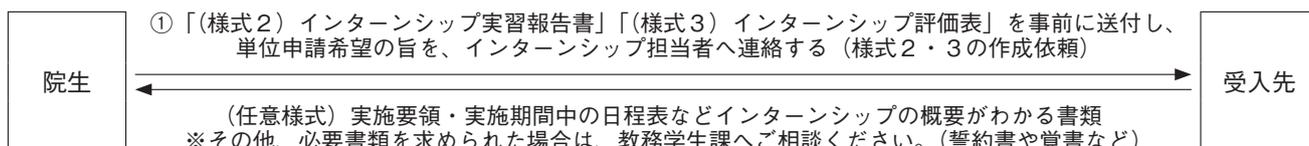
○単位認定および評価方法

- (1) 単位認定は、学生による自己申請に基づくことを原則とします。
- (2) 単位認定希望者は、所定の申請用紙をポータルサイトからダウンロードし、必要事項を記入して、指導教員へ提出してください。
- (3) 全ての手続きが、前期は7月末まで、後期は1月末までに間に合うよう指導教員と相談のうえ、余裕をもって申請してください。
- (4) 当科目は認定評価です。

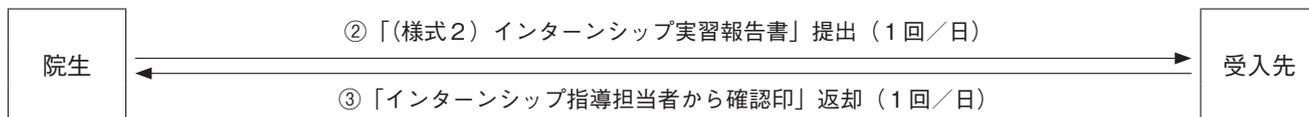
〈大学院〉情報系インターンシップの流れ

〈申請〉

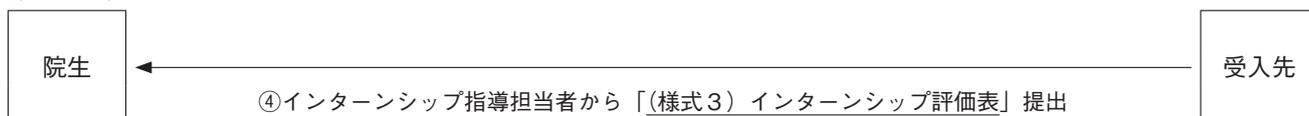
- ◆開催要項等（参加可能な企業等や日程）を確認
 - ↓
 - ◆参加申込
 - ↓
 - ◆受入先決定
- ※受入先決定までの流れは、別途お知らせを確認すること



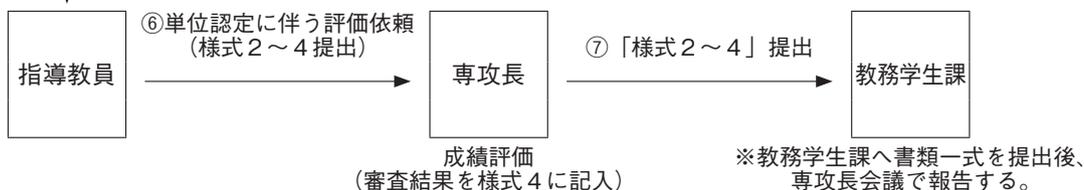
〈実施中〉



〈実施後〉



- ⑤ 「(様式2) インターンシップ実習報告書」
「(様式3) インターンシップ評価表」「(様式4) インターンシップ実習報告及び単位認定申請届」提出



〈様式について〉

- ・様式2：インターンシップ実習報告書
(受入先確認印必要)
- ・様式3：インターンシップ評価表
(受入先報告責任者署名必要)
- ・様式4：インターンシップ実習報告及び単位認定申請届
(専攻長書名・押印必要)

※様式1は使用しない

〈留意事項〉

- ・2年間のうちいつでも申請可
- ・「誓約書」と「覚書」は、各専攻で必要な場合に作成

博士(前期)課程 履修案内
令和8年度 入学生対象
工学研究科

◇科目ナンバリングについて

研究科・専攻ごとに授業科目の学習の段階や教育研究分野を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用して下さい。

1. 科目ナンバリングの配列

1列目	2列目	3列目	4列目	5列目	6列目
大学院	研究科区分	専攻区分	レベル	分野	通し番号
G	E	E	5	2	1
GEE521					

※工学研究科 電気電子システム工学専攻
「電子物性学特論」(1年次開講)の例

1列目	2列目	3列目	4列目	5列目	6列目
大学院	研究科区分	専攻区分	レベル	分野	通し番号
G	E	K	5	1	1
GEK511					

※工学研究科 バイオ情報・応用化学専攻
「環境測定分析特論」(1年次開講)の例

1列目	2列目	3列目	4列目	5列目	6列目
大学院	研究科区分	専攻区分	レベル	分野	通し番号
G	A	A	5	1	1
GAA511					

※建築学研究科 建築学専攻
「日本建築史特論」(1年次開講)の例

1列目	2列目	3列目	4列目	5列目	6列目
大学院	研究科区分	専攻区分	レベル	分野	通し番号
G	L	D	5	1	01
GLD5101					

※ライフデザイン学研究科 デザイン工学専攻
「地域経済と環境計画」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1列目 (大学院)	
G	大学院

2列目 (研究科区分)	
E	工学研究科
A	建築学研究科
L	ライフデザイン学研究科

3列目 (専攻区分)	
E	電気電子システム工学専攻
T	情報通信工学専攻
C	都市工学専攻
K	バイオ情報・応用化学専攻
A	建築学専攻
D	デザイン工学専攻

4列目 (レベルコードを表す数字)	
5	専門科目、共通科目、情報科目など (主に1年次で履修する科目)
6	研修科目(2年次までの研究指導科目)
(7)	(大学院後期課程特別研究)

5・6列目 (専攻で決めている教育研究分野および共通科目を表す数字+通し番号)		
E	0	分野横断型 (該当分野なし)
	1	知能ロボティクス分野
	2	材料デバイス分野
T	3	環境エネルギー分野
	0	分野横断型 (該当分野なし)
	1	情報科学分野
C	2	人工知能分野
	3	通信システム分野
	0	分野横断型 (該当分野なし)
K	1	災害レジリエンス科学分野
	2	サステナブル都市デザイン分野
	3	環境調和型社会システム分野
A	0	分野横断型 (該当分野なし)
	1	応用化学分野
	2	生命情報・医工学分野
	0	分野横断型 (該当分野なし)
	1	建築史・意匠分野
D	2	建築・都市計画分野
	3	建築環境工学分野
	4	建築生産工学分野
	5	制振構造学分野
	0	分野横断型 (該当分野なし)
全専攻共通	1	社会価値創造分野
	2	地域共創科学分野
全専攻共通	A	共通科目
	B	共通科目 I
	C	共通科目 II
	D	情報科目
	E	関連科目

※各科目の科目ナンバリングについては各専攻の教育課程表を参照してください。

◇電気電子システム工学専攻

◎教育課程表

科目区分	科目No.		授 業 科 目	必・選 区 分		開講時期及び単位数				教 職 科 目	備 考
						1 年		2 年			
						前	後	前	後		
研修科目	1	GEE601	電気電子システム工学専攻前期課程研修	○		8					指導を受ける大学院 院担当教員による 指導を受けること
専門科目	2	GEE511	ロボット工学特論		○		2			○	
	3	GEE512	メカトロニクス特論		○		2			○	
	4	GEE513	計測回路工学特論		○	2				○	
	5	GEE514	組込みシステム工学特論		○	2				○	
	6	GEE521	電子物性学特論		○	2				○	
	7	GEE522	磁気材料・デバイス特論		○		2			○	
	8	GEE523	画像電子工学特論		○	2				○	
	9	GEE524	化合物半導体特論		○		2			○	
	10	GEE525	熱・統計力学特論		○		2			○	
	11	GEE526	光波工学特論		○		2			○	
	12	GEE527	超音波エレクトロニクス特論		○		2			○	
	13	GEE531	エネルギーデバイス・システム工学特論		○	2				○	
	14	GEE532	エネルギー伝送工学特論		○		2			○	
	15	GEE533	環境材料化学特論		○	2				○	
16	GEE534	電力ネットワーク工学特論		○		2					
共通科目 (※1)	17	GEE5A1	インターンシップ		○	2					
	18	GEE5A2	大学院の英語 I		○	2					
	19	GEE5A3	大学院の英語 II		○		2				
	20	GEE5A4	研究倫理・研究リテラシー		○	1					
	21	GEE5A5	知財・マネジメント		○	1					
	22	GEE5A6	研究のプロセス事例紹介		○	1					
情報科目 (※2)	23	GEE5D1	R 統計解析特論		○	2				○	
	24	GEE5D2	多変量解析特論		○		2			○	
	25	GEE5D3	応用代数特論		○	2				○	
	26	GEE5D4	応用解析特論		○		2			○	
	27	GEE5D5	深層学習特論		○	2				○	
	28	GEE5D6	機械学習特論		○		2			○	
	29	GEE5D7	建築A I データサイエンス特論		○	2					
	30	GEE5D8	情報系インターンシップ		○	2					
関連科目	-	GEE5E1	本学大学院における他専攻の授業科目		○	…	…	…	…		あわせて 10単位以内
	-	GEE5E2	他大学院の授業科目		○	…	…	…	…		
	-	GEE5E3	大学院教授会において関連科目と認めたもの		○	…	…	…	…		

(※1) 共通科目については、1科目2単位以上を必ず修得すること。
(※2) 情報科目については、2科目4単位以上を必ず修得すること。

◇情報通信工学専攻

◎教育課程表

科目区分	科目No.		授 業 科 目	必・選 区 分		開講時期及び単位数				教 職 科 目	備 考
						1 年		2 年			
						前	後	前	後		
研修科目	1	GET601	情報通信工学専攻前期課程研修	○		8					指導を受ける大学院担当教員による指導を受けること
専門科目	2	GET511	コンピュータアーキテクチャ特論		○		2			○	
	3	GET512	インターネット工学特論		○		2			○	
	4	GET513	衛星画像解析特論		○	2				○	
	5	GET514	情報ネットワーク特論		○	2				○	
	6	GET515	認知工学特論		○		2			○	
	7	GET521	インタラクション工学特論		○		2			○	
	8	GET522	デジタル信号処理特論		○		2			○	
	9	GET531	環境電磁工学特論		○	2				○	
	10	GET532	無線通信システム特論		○	2				○	
	11	GET533	電磁波工学特論		○		2			○	
	12	GET534	テラヘルツ工学特論		○		2			○	
	13	GET535	光通信システム特論		○	2				○	
	14	GET536	宇宙空間計測学特論		○	2				○	
	共通科目 (※1)	15	GET5A1	インターンシップ		○	2				
16		GET5A2	大学院の英語 I		○	2					
17		GET5A3	大学院の英語 II		○		2				
18		GET5A4	研究倫理・研究リテラシー		○	1					
19		GET5A5	知財・マネジメント		○	1					
20		GET5A6	研究のプロセス事例紹介		○	1					
情報科目 (※2)	21	GET5D1	R 統計解析特論		○	2				○	
	22	GET5D2	多変量解析特論		○		2			○	
	23	GET5D3	応用代数特論		○	2				○	
	24	GET5D4	応用解析特論		○		2			○	
	25	GET5D5	深層学習特論		○	2				○	
	26	GET5D6	機械学習特論		○		2			○	
	27	GET5D7	建築AIデータサイエンス特論		○	2					
	28	GET5D8	情報系インターンシップ		○	2					
関連科目	-	GET5E1	本学大学院における他専攻の授業科目		○		あわせて 10単位以内
	-	GET5E2	他大学院の授業科目		○		
	-	GET5E3	大学院教授会において関連科目と認めたもの		○		

(※1) 共通科目については、1科目2単位以上を必ず修得すること。

(※2) 情報科目については、2科目4単位以上を必ず修得すること。

◇都市工学専攻

◎教育課程表

科目区分	科目No.		授 業 科 目	必・選		開講時期及び単位数				教職科目	備 考
				区	分	1年		2年			
						必修	選択	前	後		
研修科目	1	GEC601	都市工学専攻前期課程研修	○		8					指導を受ける大学院担当教員による指導を受けること
専門科目	2	GEC511	地 盤 工 学 特 論		○	2				○	
	3	GEC512	水 文 学 特 論		○	2				○	
	4	GEC513	構 造 解 析 学 特 論		○		2			○	
	5	GEC514	交 通 行 動 分 析		○		2			○	
	6	GEC521	Advanced Infrastructure Planning		○	2				○	
	7	GEC522	鉄筋コンクリート工学特論		○	2				○	
	8	GEC523	都 市 環 境 学 特 論		○	2				○	
	9	GEC524	空 間 情 報 工 学 特 論		○		2				
	10	GEC531	緑 地 環 境 科 学 特 論		○	2				○	
	11	GEC532	環 境 衛 生 工 学 特 論		○		2			○	
	12	GEC533	環 境 影 響 評 価 特 論		○		2			○	
	13	GEC534	河 海 水 理 学 特 論		○		2			○	
	共通科目 (※1)	14	GEC5A1	イ ン タ ー ン シ ッ プ		○	2				
15		GEC5A2	大 学 院 の 英 語 I		○	2					
16		GEC5A3	大 学 院 の 英 語 II		○		2				
17		GEC5A4	研 究 倫 理 ・ 研 究 リ テ ラ シ ー		○	1					
18		GEC5A5	知 財 ・ マ ネ ジ メ ン ト		○	1					
19		GEC5A6	研 究 の プ ロ セ ス 事 例 紹 介		○	1					
情報科目 (※2)	20	GEC5D1	R 統 計 解 析 特 論		○	2				○	
	21	GEC5D2	多 変 量 解 析 特 論		○		2			○	
	22	GEC5D3	応 用 代 数 特 論		○	2				○	
	23	GEC5D4	応 用 解 析 特 論		○		2			○	
	24	GEC5D5	深 層 学 習 特 論		○	2				○	
	25	GEC5D6	機 械 学 習 特 論		○		2			○	
	26	GEC5D7	建 築 A I デ ー タ サ イ エ ン ス 特 論		○	2					
	27	GEC5D8	情 報 系 イ ン タ ー ン シ ッ プ		○	2					
関連科目	-	GEC5E1	本学大学院における他専攻の授業科目		○		あわせて 10単位以内
	-	GEC5E2	他 大 学 院 の 授 業 科 目		○		
	-	GEC5E3	大学院教授会において関連科目と認めたもの		○		

(※1) 共通科目については、1科目2単位以上を必ず修得すること。

(※2) 情報科目については、2科目4単位以上を必ず修得すること。

◇バイオ情報・応用化学専攻

◎教育課程表

科目区分	科目No.		授業科目	必・選 区 分		開講時期及び単位数				教職科目	備 考
						1年		2年			
						前	後	前	後		
研修科目	1	GEK601	バイオ情報・応用化学専攻前期課程研修	○		8					指導を受ける大学院担当教員による指導を受けること
専門科目	2	GEK511	環境測定分析特論		○	2				○	
	3	GEK512	環境材料化学特論		○	2				○	
	4	GEK513	多孔表面化学特論		○	2				○	
	5	GEK514	化学工学特論		○		2			○	
	6	GEK515	環境影響評価特論		○		2			○	
	7	GEK516	生体機能工学特論		○		2			○	
	8	GEK521	生物電気化学特論		○	2				○	
	9	GEK522	生体情報工学特論		○	2				○	
	10	GEK523	生体医用光学特論		○		2			○	
	11	GEK524	神経科学特論		○		2			○	
共通科目 (※1)	12	GEK5A1	インターンシップ		○	2					
	13	GEK5A2	大学院の英語 I		○	2					
	14	GEK5A3	大学院の英語 II		○		2				
	15	GEK5A4	研究倫理・研究リテラシー		○	1					
	16	GEK5A5	知財・マネジメント		○	1					
	17	GEK5A6	研究のプロセス事例紹介		○	1					
情報科目 (※2)	18	GEK5D1	R統計解析特論		○	2				○	
	19	GEK5D2	多変量解析特論		○		2			○	
	20	GEK5D3	応用代数特論		○	2				○	
	21	GEK5D4	応用解析特論		○		2			○	
	22	GEK5D5	深層学習特論		○	2				○	
	23	GEK5D6	機械学習特論		○		2			○	
	24	GEK5D7	建築AIデータサイエンス特論		○	2					
	25	GEK5D8	情報系インターンシップ		○	2					
関連科目	-	GEK5E1	本学大学院における他専攻の授業科目		○		あわせて 10単位以内
	-	GEK5E2	他大学院の授業科目		○		
	-	GEK5E3	大学院教授会において関連科目と認めたもの		○		

(※1) 共通科目については、1科目2単位以上を必ず修得すること。

(※2) 情報科目については、2科目4単位以上を必ず修得すること。

博士(前期)課程 履修案内
令和8年度 入学生対象

建築学研究科

◇科目ナンバリングについて

研究科・専攻ごとに授業科目の学習の段階や教育研究分野を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用して下さい。

1. 科目ナンバリングの配列

1列目	2列目	3列目	4列目	5列目	6列目
大学院	研究科区分	専攻区分	レベル	分野	通し番号
G	E	E	5	2	1
GEE521					

※工学研究科 電気電子システム工学専攻
「電子物性学特論」(1年次開講)の例

1列目	2列目	3列目	4列目	5列目	6列目
大学院	研究科区分	専攻区分	レベル	分野	通し番号
G	E	K	5	1	1
GEK511					

※工学研究科 バイオ情報・応用化学専攻
「環境測定分析特論」(1年次開講)の例

1列目	2列目	3列目	4列目	5列目	6列目
大学院	研究科区分	専攻区分	レベル	分野	通し番号
G	A	A	5	1	1
GAA511					

※建築学研究科 建築学専攻
「日本建築史特論」(1年次開講)の例

1列目	2列目	3列目	4列目	5列目	6列目
大学院	研究科区分	専攻区分	レベル	分野	通し番号
G	L	D	5	1	01
GLD5101					

※ライフデザイン学研究科 デザイン工学専攻
「地域経済と環境計画」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1列目 (大学院)	
G	大学院

2列目 (研究科区分)	
E	工学研究科
A	建築学研究科
L	ライフデザイン学研究科

3列目 (専攻区分)	
E	電気電子システム工学専攻
T	情報通信工学専攻
C	都市工学専攻
K	バイオ情報・応用化学専攻
A	建築学専攻
D	デザイン工学専攻

4列目 (レベルコードを表す数字)	
5	専門科目、共通科目、情報科目など (主に1年次で履修する科目)
6	研修科目(2年次までの研究指導科目)
(7)	(大学院後期課程特別研究)

5・6列目 (専攻で決めている教育研究分野および共通科目を表す数字+通し番号)		
E	0	分野横断型 (該当分野なし)
	1	知能ロボティクス分野
	2	材料デバイス分野
T	3	環境エネルギー分野
	0	分野横断型 (該当分野なし)
	1	情報科学分野
C	2	人工知能分野
	3	通信システム分野
	0	分野横断型 (該当分野なし)
K	1	災害レジリエンス科学分野
	2	サステナブル都市デザイン分野
	3	環境調和型社会システム分野
A	0	分野横断型 (該当分野なし)
	1	応用化学分野
	2	生命情報・医工学分野
	0	分野横断型 (該当分野なし)
	1	建築史・意匠分野
D	2	建築・都市計画分野
	3	建築環境工学分野
	4	建築生産工学分野
	5	制振構造学分野
	0	分野横断型 (該当分野なし)
全専攻共通	1	社会価値創造分野
	2	地域共創科学分野
全専攻共通	A	共通科目
	B	共通科目 I
	C	共通科目 II
	D	情報科目
	E	関連科目

※各科目の科目ナンバリングについては各専攻の教育課程表を参照してください。

◇建築学専攻

◎教育課程表

科目区分	科目No.	授 業 科 目	必・選 区 分		開講時期及び単位数				教職科目	備 考
			必修	選択	1 年		2 年			
					前	後	前	後		
研修科目	1 GAA601	建築学専攻前期課程研修	○		8					指導を受ける大学院担当教員による指導を受けること
専門科目	2 GAA511	日本建築史特論		○		2			○	
	3 GAA512	建築形態論		○		2			○	
	4 GAA513	建築・インテリアデザイン論		○		2			○	
	5 GAA514	建築意匠特論		○	2				○	
	6 GAA521	地域環境計画		○	2				○	
	7 GAA522	施設計画特論		○		2			○	
	8 GAA523	住宅計画特論		○	2				○	
	9 GAA524	公共空間と人間行動		○	2					
	10 GAA531	建築環境計画特論		○	2				○	
	11 GAA532	建築設備学特論		○		2			○	
	12 GAA533	気候風土と地域・都市特論		○	2				○	
	13 GAA534	建築防災計画特論		○	2				○	
	14 GAA541	建築ライフサイクルマネジメント		○	2				○	
	15 GAA542	コンクリート材料特論		○		2			○	
	16 GAA551	振動基礎論		○	2				○	
	17 GAA552	振動解析学		○		2			○	
	18 GAA553	制振構造論		○	2				○	
	19 GAA554	地盤工学特論		○		2				
	20 GAA501	建築倫理とマネジメント	○		1					
	21 GAA535	建築環境設備設計		○		2				
	22 GAA515	建築設計実務演習		○			2			※1
	23 GAA536	建築環境設備実務演習		○			2			※1
	24 GAA556	建築構造実務演習		○			2			※1
	25 GAA502	建築インターンシップ1 A		○			5			※2
	26 GAA503	建築インターンシップ1 B		○			5			※2
	27 GAA504	建築インターンシップ2		○			5			※2
	28 GAA505	建築インターンシップ3		○			5			※2
	29 GAA506	建築学研究公開Ⅰ	○				2			
	30 GAA507	建築学研究公開Ⅱ		○			2			
	共通科目	31 GAA5A1	インターンシップ		○		2			
32 GAA5A2		大学院の英語Ⅰ		○	2					
33 GAA5A3		大学院の英語Ⅱ		○		2				
34 GAA5A4		研究倫理・研究リテラシー		○	1					
35 GAA5A5		知財・マネジメント		○	1					
36 GAA5A6		研究のプロセス事例紹介		○	1					
情報科目	37 GAA5D1	R統計解析特論		○	2				○	1科目2単位以上を必ず履修すること
	38 GAA5D2	多変量解析特論		○		2			○	
	39 GAA5D3	応用代数特論		○	2				○	
	40 GAA5D4	応用解析特論		○		2			○	
	41 GAA5D5	深層学習特論		○	2				○	
	42 GAA5D6	機械学習特論		○		2			○	
	43 GAA5D7	建築AⅠデータサイエンス特論		○	2				○	
	44 GAA5D8	情報系インターンシップ		○		2				
関連科目	45 GAA5E1	本学大学院における他専攻の授業科目		○	…	…	…	…		あわせて10単位以内
	46 GAA5E2	他大学院の授業科目		○	…	…	…	…		
	47 GAA5E3	大学院教授会において関連科目と認めたもの		○	…	…	…	…		

◎建築士試験の大学院における実務経験について
 大学院における一級建築士の実務経験取得にあたっては、実務経験1年の場合は15単位以上、2年の場合は30単位以上取得が必要。うち、インターンシップの単位数は4単位以上、インターンシップ関連科目として、演習・実験・実習は8単位以下、講義は8単位以下の取得が前提。((公)建築技術教育普及センターによる審査基準) また、表中の共通科目、情報科目及び関連科目は実務経験の必要単位に算入されない。

※1 [並列開講科目] 一級建築士の実務経験取得にあたっては、いずれか1科目を選択して必修とする。
 ※2 一級建築士の実務経験1年取得にあたっては、建築インターンシップ1 A又は1 Bいずれかを必修とする。
 一級建築士の実務経験2年取得にあたっては、建築インターンシップ1 A又は1 Bに加え、建築インターンシップ2、3をあわせた合計15単位を取得する。
 但し、建築インターンシップ1 A及び1 Bの重複する単位認定はできない。
 また、建築インターンシップ2、3については修了に要する単位に算入しない。

博士(前期)課程 履修案内
令和8年度 入学生対象
ライフデザイン学研究科

◇科目ナンバリングについて

研究科・専攻ごとに授業科目の学習の段階や教育研究分野を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用して下さい。

1. 科目ナンバリングの配列

1列目	2列目	3列目	4列目	5列目	6列目
大学院	研究科区分	専攻区分	レベル	分野	通し番号
G	E	E	5	2	1
GEE521					

※工学研究科 電気電子システム工学専攻
「電子物性学特論」(1年次開講)の例

1列目	2列目	3列目	4列目	5列目	6列目
大学院	研究科区分	専攻区分	レベル	分野	通し番号
G	E	K	5	1	1
GEK511					

※工学研究科 バイオ情報・応用化学専攻
「環境測定分析特論」(1年次開講)の例

1列目	2列目	3列目	4列目	5列目	6列目
大学院	研究科区分	専攻区分	レベル	分野	通し番号
G	A	A	5	1	1
GAA511					

※建築学研究科 建築学専攻
「日本建築史特論」(1年次開講)の例

1列目	2列目	3列目	4列目	5列目	6列目
大学院	研究科区分	専攻区分	レベル	分野	通し番号
G	L	D	5	1	01
GLD5101					

※ライフデザイン学研究科 デザイン工学専攻
「地域経済と環境計画」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1列目 (大学院)	
G	大学院

2列目 (研究科区分)	
E	工学研究科
A	建築学研究科
L	ライフデザイン学研究科

3列目 (専攻区分)	
E	電気電子システム工学専攻
T	情報通信工学専攻
C	都市工学専攻
K	バイオ情報・応用化学専攻
A	建築学専攻
D	デザイン工学専攻

4列目 (レベルコードを表す数字)	
5	専門科目、共通科目、情報科目など (主に1年次で履修する科目)
6	研修科目(2年次までの研究指導科目)
(7)	(大学院後期課程特別研究)

5・6列目 (専攻で決めている教育研究分野および共通科目を表す数字+通し番号)		
E	0	分野横断型 (該当分野なし)
	1	知能ロボティクス分野
	2	材料デバイス分野
T	3	環境エネルギー分野
	0	分野横断型 (該当分野なし)
	1	情報科学分野
C	2	人工知能分野
	3	通信システム分野
	0	分野横断型 (該当分野なし)
K	1	災害レジリエンス科学分野
	2	サステナブル都市デザイン分野
	3	環境調和型社会システム分野
A	0	分野横断型 (該当分野なし)
	1	応用化学分野
	2	生命情報・医工学分野
	0	分野横断型 (該当分野なし)
	1	建築史・意匠分野
D	2	建築・都市計画分野
	3	建築環境工学分野
	4	建築生産工学分野
	5	制振構造学分野
	0	分野横断型 (該当分野なし)
全専攻共通	1	社会価値創造分野
	2	地域共創科学分野
	A	共通科目
	B	共通科目 I
	C	共通科目 II
D	情報科目	
E	関連科目	

※各科目の科目ナンバリングについては各専攻の教育課程表を参照してください。

◇デザイン工学専攻

◎教育課程表

科目区分	科目No.		授 業 科 目	必・選 区 分		開講時期及び単位数				教 職 科 目	備 考	
						1 年		2 年				
						前	後	前	後			
研修科目	1	GLD6001	デザイン工学専攻前期課程研修	○		6					指導を受ける大学院担当教員による指導を受けること	
専門科目	2	GLD5102	デザイン文化論		○		2				○	
	3	GLD5103	情報メディア論		○	2					○	
	4	GLD5104	ソフトウェア開発手法特論		○		2				○	
	5	GLD5105	経営・会計学特論		○		2					
	6	GLD5106	ビジュアルデザイン特論		○		2					
	7	GLD5107	視覚情報論		○	2					○	
	8	GLD5108	デザイン経営論		○	2					○	
	9	GLD5109	地域産業デザイン論		○		2					
	10	GLD5110	福祉情報デザイン論		○	2					○	
	11	GLD5201	造家造景特論		○	2					○	
	12	GLD5202	地域環境創生論		○		2				○	
	13	GLD5203	地域居住と防災減災		○		2				○	
	14	GLD5204	環境文化論		○	2						
	15	GLD5205	看護支援デザイン論		○		2					
	16	GLD5206	生活環境性能論		○	2					○	
	17	GLD5207	福祉空間特論		○	2					○	
	18	GLD5208	生態環境とサステナビリティ		○		2				○	
	共通科目Ⅰ	19	GLD5B01	社会価値と地域共創		○	2					
20		GLD5B02	インターンシップ		○	2						
共通科目Ⅱ	21	GLD5C01	大学院の英語Ⅰ		○	2						
	22	GLD5C02	大学院の英語Ⅱ		○		2					
関連科目	-	GLD5E01	本学大学院における他専攻の授業科目		○	…	…	…	…			あわせて 10単位以内
	-	GLD5E02	他大学院の授業科目		○	…	…	…	…			
	-	GLD5E03	大学院教授会において関連科目と認めたもの		○	…	…	…	…			

教育職員課程

本学の理念並びに教員養成の目的と目標

東北工業大学は、わが国、特に東北地方の産業界で指導的役割を担う高度の技術者を養成することを建学の精神としている。その精神の下、人間・環境を重視した、豊かな生活のための学問を創造し、それらの統合を目指す教育・研究により、持続可能な社会の発展に寄与することを大学の理念とし、専門家として必要な素地、調和のとれた人格、優れた創造力と実行力を備えた人材の育成をその教育方針としている。

■ 専修免許状

高等学校一種免許状の課程で修得したことを基礎とし、広い視野に立った精深な学識を持ち、工業の領域の高度な能力を持つ教員の養成を目標とする。

電気電子システム工学専攻

工業・情報の領域の高度な能力を持ち、新しい技術に柔軟に対応でき、コミュニケーション能力を備えた教員の養成を目標とする。

情報通信工学専攻

工業・情報の領域の高度な能力を持ち、幅広い視野と高い倫理観を持った、情報処理に秀でた教員の養成を目標とする。

都市工学専攻

工業の領域の高度な能力を持ち、高い良識と倫理観を持った、土木技術および都市や地域社会の創造に関わる高度な知識と能力を有する教員の養成を目標とする。

バイオ情報・応用化学専攻

工業の領域の高度な能力を持ち、生命情報、医工学、応用化学の発展を目指す、幅広い視野と高い倫理観を備えた教員を養成することを目標とする。

建築学専攻

工業の領域の高度な能力を持ち、総合的な視野と高い倫理観を備えた、建築に秀でた教員の養成を目標とする。

デザイン工学専攻

工業の領域の高度な能力と高い倫理観を持ち、これを社会価値や地域共創に活かすデザイン力に秀でた、総合的な視野をもった教員の養成を目標とする。

教職課程の履修について

高等学校教諭専修免許状を取得するためには、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に基づいて、本大学院に設置する教職課程所定の単位を修得しなければなりません。

1. 教育職員免許状の種類及び教科

研究科 ・ 専攻		免許状の種類	教科
工学研究科	電気電子システム工学専攻	高等学校教諭 専修免許状	工業
	情報通信工学専攻		
	都市工学専攻		
	バイオ情報・応用化学専攻		
建築学研究科	建築学専攻		
ライフデザイン学研究科	デザイン工学専攻		

2. 最低修得単位数

(1) 高等学校教諭一種免許状（工業）取得者の場合

研究科 ・ 専攻	免許教科 (種類)	博士(前期)課程における 最低修得単位数
工学研究科	電気電子システム工学専攻	工業(専修) 工業の関係科目 24単位
	情報通信工学専攻	工業(専修) 工業の関係科目 24単位
	都市工学専攻	工業(専修) 工業の関係科目 24単位
	バイオ情報・応用化学専攻	工業(専修) 工業の関係科目 24単位
建築学研究科	建築学専攻	工業(専修) 工業の関係科目 24単位
ライフデザイン学研究科	デザイン工学専攻	工業(専修) 工業の関係科目 24単位

(2) 高等学校教諭一種免許状（工業）の所要資格を有する者の場合

研究科 ・ 専攻	学部(学士)における最低修得単位数	博士(前期)課程における 最低修得単位数	
工学研究科	電気電子システム工学専攻	<ul style="list-style-type: none"> ・教科及び教科の指導法に関する科目 36単位 ・教育の基礎的理解に関する科目等 23単位 ・日本国憲法 2単位 ・体育 2単位 ・外国語コミュニケーション 2単位 ・情報機器の操作 2単位 ※詳細は、学部の教職免許状の取得に関する履修規程を参照してください。	工業の関係科目 24単位
	情報通信工学専攻		工業の関係科目 24単位
	都市工学専攻		工業の関係科目 24単位
	バイオ情報・応用化学専攻		工業の関係科目 24単位
建築学研究科	建築学専攻	工業の関係科目 24単位	
ライフデザイン学研究科	デザイン工学専攻	工業の関係科目 24単位	

3. 教育課程（教科及び教科の指導法に関する科目）

教育課程表をご確認ください。

各種規定等・教員一覽

学位論文について

◇ 修士学位論文について（令和8年度入学生対象）

修士学位論文は、指導教員の必要な研究指導を受けて作成し、論文審査委員会の審査を受けなければなりません。また、論文審査に合格した者に対しては、当該学位論文を中心とした関連科目について、口述または筆記により最終試験が行われます。

（内容に変更があった場合はポータルサイトでお知らせします。）

1. 令和9年度 修士学位論文審査等に関する日程

	期 日	備 考
修士学位論文題目届の提出	令和9年11月19日 16時まで	[提出先] 学生サポートオフィス (教務学生課)
修士学位論文題目変更届の提出	令和10年1月14日 16時まで	[提出先] 学生サポートオフィス (教務学生課)
修士学位論文の提出	令和10年2月14日 16時まで	[提出先] 指導教員・専攻長を通して 研究科長
論文発表会及び審査会	各専攻で定める	
最終試験の実施	各専攻で定める	
修了者発表	令和10年3月上旬	日程については、別途お知らせ します。
学位授与式	令和10年3月中旬	日程については、別途お知らせ します。

2. 修士学位論文提出資格

大学院研究科の博士(前期)課程に1年以上在学し、必要な研究指導を受け、かつ、所定の30単位以上を修得したもものまたは修得見込みである者が提出できます。ただし、大学院教授会が認めた場合は1年次で提出することができます。

3. 修士学位論文題目届について

論文提出予定者に、教務学生課より「修士学位論文題目届」を配布しますので、作成後、指導教員の承認を得てから提出して下さい。題目の変更が生じた場合は、指定の期日までに題目変更届を作成し、指導教員の承認を得てから提出して下さい。

4. 修士学位論文の提出及び作成について

(1) 提出物および部数

修士学位論文：正本1部、副本2部

論文内容要旨：3部（論文の巻頭に綴じ込み）

※上記の提出部数は、論文審査委員が3名（主査1名、副査2名）の場合で、4名以上の場合は副本と要旨の部数を増やして提出して下さい。

(2) 体裁等

〔論文〕

- ① 教務学生課より配布する表紙を使用し、表面に論文題目、専攻、学生番号、氏名を記載して下さい。裏面は、学生記入欄について所定事項を記入して下さい。
- ② 仕様体裁はA4判用紙を縦型に使用し、文字は横書きとします。
- ③ 左側に余白2.5cmを設けて印刷して下さい。
- ④ 副本は複写で可とします。
- ⑤ 論文に写真、統計図表、図版、製図等を添付する必要がある場合には、台紙に貼付、或いは折り込みをする等、全てA4判大に仕上げして下さい。
- ⑥ 論文には下部中央部に通しページ番号を付して下さい。
- ⑦ 表紙、本文など論文一式を黒ひもで綴じて提出して下さい。
- ⑧ 提出された論文は大学で製本します。

〔論文内容要旨〕 P.26 参照

- ① 教務学生課より配布する表紙を使用し、論文題目（英文題目を併記）、専攻名、指導教員名、学生番号、氏名を記載して下さい。
- ② 仕様体裁はA4版用紙を縦型に使用し、文字は横書き、文字数は200～400ワード程度の英文アブストラクトを含む、8,000字～12,000字程度とします。（総ページは様式見本の4～6ページ程度で図面等を含みます。）
- ③ 左側に余白2.5cmを設けて、片面印刷して下さい。
- ④ 論文内容要旨が複数枚に及ぶ場合は、下部中央部に通しページ番号を付して下さい。
- ⑤ 論文内容要旨は、論文の巻頭に綴じ込みして下さい。

◇ 修士学位設計について（対象：建築学専攻）（令和8年度入学生対象）

建築学専攻に在学する学生が、修士学位設計を提出した場合、この設計作品は本大学院学則第21条第2項に定める「特定の課題についての研究の成果」とみなし、その審査をもって修士論文の審査に代える扱いを受けることができます。

修士学位設計は、指導教員の指導の下で作成し、設計審査委員会の審査を受けなければなりません。また、設計審査に合格した者に対しては、当該学位設計を中心とした関連科目について、口述または筆記により最終試験が行なわれます。

（内容に変更があった場合はポータルサイトでお知らせします。）

1. 令和9年度 修士学位設計審査等に関する日程

	期 日	備 考
修士学位設計題目届の提出	令和9年11月19日 16時まで	[提出先] 学生サポートオフィス (教務学生課)
修士学位設計題目変更届の提出	令和10年1月14日 16時まで	[提出先] 学生サポートオフィス (教務学生課)
修士学位設計の提出	令和10年2月14日 16時まで	[提出先] 修士学位設計図並びに模型 ：指導教員を通じて専攻長 修士学位設計図書・設計内容要旨 ：指導教員・専攻長を通じて研究 科長
設計発表会及び審査会	各専攻で定める	
最終試験の実施	各専攻で定める	
修了者発表	令和10年3月上旬	日程については、別途お知らせします。
学位授与式	令和10年3月中旬	日程については、別途お知らせします。

2. 修士学位設計提出資格

大学院研究科の博士(前期)課程に1年以上在学し、必要な研究指導を受け、かつ、所定の30単位以上を修得した者または修得見込みである者が提出できます。ただし、大学院教授会が認めた場合は1年次で提出することができます。

3. 修士学位設計題目届について

修士学位設計提出予定者に、教務学生課より「修士学位設計題目届」を配布しますので、作成後、指導教員の承認を得てから提出して下さい。題目の変更が生じた場合は、指定の期日までに題目変更届を作成し、指導教員の承認を得てから提出して下さい。

4. 修士学位設計の制作について

修士学位設計は予備的な調査・研究を含めて指導教員、各分野教員及び外部の建築設計実務者等の必要な指導を受けて制作して下さい。

5. 中間審査

終了年次の12月中旬に行なわれる、プレゼンテーションと質疑応答を含む中間審査を必ず受けて下さい。中間審査の委員は指導教員を含む3名以上で構成していますが、必要に応じて実務に携わっている外部の建築士を加えることもあります。

6. 修士学位設計の提出および作成について

中間審査を合格した者だけが修士学位設計を提出できます。

(1) 提出物および部数

修士学位設計図並びに模型：一式

修士学位設計図書：正本1部、副本2部

設計内容要旨：3部（設計図書の巻頭に綴じ込み）

※上記の提出部数は、設計審査委員が3名（主査1名、副査2名）の場合で、4名以上の場合は副本と要旨の部数を増やして提出して下さい。

(2) 体裁等

〔設計図および模型〕

- ① 設計図の仕様体裁はA1判用紙を使用することを原則とします。
- ② 用紙の使用は縦型横型の別は問いません。
- ③ 用紙の紙質、色等は問いません。
- ④ 図面の表現方法は内容を適切に伝達するものであれば自由です。
- ⑤ 図面の裏面には通し番号を付し、それぞれ設計題目、氏名を記載して下さい。
- ⑥ 模型の体裁は問いません。

〔設計図書〕

設計の各種条件、調査、コンセプト、各種スタディ等の資料を、設計の過程を明確に示すように以下の様式に沿ってまとめ、最終の図面（大判の場合はA4判へ折り込み）、模型写真等とともにA4判に製本し提出して下さい。

- ① 教務学生課より配布する表紙を使用し、表面に設計題目、専攻、学生番号、氏名を記載して下さい。裏面は、学生記入欄について所定事項を記入して下さい。
- ② 仕様体裁は最終の図面を除きA4判用紙を縦型に使用し、文字は横書きとします。
- ③ 左側に余白2.5cmを設けて印刷して下さい。
- ④ 副本は複写で可とします。
- ⑤ 図書に写真、統計図表、図版、製図等を添付する必要がある場合には、台紙に貼付、或は折り込みをする等、全てA4判大に仕上げして下さい。
- ⑥ 図書には下部中央部に通しページ番号を付して下さい。
- ⑦ 表紙、本文など図書一式を黒ひもで綴じて提出して下さい。
- ⑧ 提出された図書は大学で製本します。

〔設計内容要旨〕 P.26 参照

- ① 教務学生課より配布する表紙を使用し、設計題目（英文題目を併記）、専攻名、指導教員名、学生番号、氏名を記載して下さい。
- ② 仕様体裁はA4版用紙を縦型に使用し、文字は横書き、文字数は200～400ワード程度の英文アブストラクトを含む、8,000字～12,000字程度とします。（総ページは様式見本の4～6ページ程度で図面等を含みます。）
- ③ 左側に余白2.5cmを設けて、片面印刷して下さい。
- ④ 設計内容要旨が複数枚に及ぶ場合は、下部中央部に通しページ番号を付して下さい。
- ⑤ 設計内容要旨は、設計図書の巻頭に綴じ込みして下さい。

7. 本審査について

修了年次の2月末までに行なわれる本審査は、外部にも公開して実施します。中間審査に続く再度のプレゼンテーションと質疑応答から、中間審査で指摘された項目や全体の完成度などについて最終審査し、合否を決定します。なお、本審査の委員は中間審査の委員と同じです。

◇ 修士学位制作について（対象：デザイン工学専攻）（令和8年度入学生対象）

デザイン工学専攻に在学する博士(前期)課程の学生が、修士学位制作内規に従って修士学位制作を提出した場合、この作品は本大学院学則第21条第2項に定める「特定の課題についての研究の成果」とみなし、その審査をもって修士論文の審査に代える取り扱いを受けることができます。

修士学位制作は、指導教員の指導の下で作成し、制作審査委員会の審査を受けなければなりません。また、制作審査に合格した者に対しては、当該学位制作を中心とした関連科目について、口述または筆記により最終試験が行なわれます。

(内容に変更があった場合はポータルサイトでお知らせします。)

1. 令和9年度 修士学位制作審査等に関する日程

	期 日	備 考
修士学位制作題目届の提出	令和9年11月19日 16時まで	[提出先] 学生サポートオフィス (教務学生課)
修士学位制作題目変更届の提出	令和10年1月14日 16時まで	[提出先] 学生サポートオフィス (教務学生課)
修士学位制作の提出	令和10年2月14日 16時まで	[提出先] 指導教員・専攻長を通じて 研究科長
制作発表会及び審査会	各専攻で定める	
最終試験の実施	各専攻で定める	
修了者発表	令和10年3月上旬	日程については、別途お知らせ します。
学位授与式	令和10年3月中旬	日程については、別途お知らせ します。

2. 修士学位制作提出資格

大学院研究科の博士(前期)課程に1年以上在学し、必要な研究指導を受け、かつ、所定の30単位以上を修得した者または修得見込みである者が提出できます。ただし、大学院教授会が認めた場合は1年次で提出することができます。

3. 修士学位制作題目届について

学位制作提出予定者に、教務学生課より「修士学位制作題目届」を配布しますので、作成後、指導教員の承認を得てから提出して下さい。題目の変更が生じた場合は、指定の期日までに題目変更届を作成し、指導教員の承認を得てから提出して下さい。

4. 修士学位制作の提出および作成について

修士学位制作における作品は、予備的な研究・調査を含めて指導教員の必要な指導を受けて制作して下さい。

(1) 提出物および部数

修士学位制作による作品：一式

修士学位制作に関わる設計図書：正本1部、副本2部

制作内容要旨：3部（設計図書の巻頭に綴じ込み）

※上記の提出部数は、制作審査委員が3名（主査1名、副査2名）の場合で、4名以上の場合は副本と要旨の部数を増やして提出して下さい。

(2) 体裁等

〔制作に関わる設計図書〕

制作の各種条件、調査、コンセプト、各種スタディ等の資料を、設計の過程を明確に示すように以下の様式に沿ってまとめ、最終の図面（A2判折り込み）、作品写真等とともにA4判に製本し提出して下さい。

- ① 教務学生課より配布する表紙を使用し、表面に制作題目、専攻、学生番号、氏名を記載して下さい。裏面は、学生記入欄について所定事項を記入して下さい。
- ② 仕様体裁は最終の図面を除いてA4判用紙を縦型に使用し、文字は横書きとします。
- ③ 左側に余白2.5cmを設けて印刷して下さい。
- ④ 副本は複写で可とします。
- ⑤ 図書に写真、統計図表、図版、製図等を添付する必要がある場合には、台紙に貼付、或は折り込みをする等、全てA4判大に仕上げして下さい。
- ⑥ 図書には下部中央部に通しページ番号を付して下さい。
- ⑦ 表紙、本文など論文一式を黒ひもで綴じて提出して下さい。
- ⑧ 提出された図書は大学で製本します。

〔制作内容要旨〕 P.26 参照

- ① 教務学生課より配布する表紙を使用し、制作題目（英文題目を併記）、専攻名、指導教員名、学生番号、氏名を記載して下さい。
- ② 仕様体裁はA4版用紙を縦型に使用し、文字は横書き、文字数は200～400ワード程度の英文アブストラクトを含む、8,000字～12,000字程度とします。（総ページは様式見本の4～6ページ程度で図面等を含みます。）
- ③ 左側に余白2.5cmを設けて、片面印刷して下さい。
- ④ 制作内容要旨が複数枚に及ぶ場合は、下部中央部に通しページ番号を付して下さい。
- ⑤ 制作内容要旨は、設計図書の巻頭に綴じ込みして下さい。

◇博士學位論文について（令和8年度入学生対象）

博士學位論文は、指導教員の必要な研究指導を受けて作成し、論文審査委員会の審査を受けなければなりません。また、論文審査に合格した者に対しては、当該學位論文を中心とした関連科目について、口述または筆記により最終試験が行われます。

（内容に変更があった場合はポータルサイトでお知らせします。）

1. 令和10年度 博士學位論文審査等に関する日程

	期 日	備 考
博士學位論文題目届の提出	令和10年11月17日 16時まで	[提出先] 学生サポートオフィス (教務学生課)
博士學位論文題目変更届の提出	令和11年1月9日 16時まで	[提出先] 学生サポートオフィス (教務学生課)
博士學位論文（仮製本）の提出	令和11年1月19日 16時まで	[提出先] 指導教員・専攻長を通して 研究科長
論文発表会及び審査会	各専攻で定める	
最終試験の実施	各専攻で定める	
修了者発表	令和11年3月上旬	日程については、別途お知らせ します。
学位授与式	令和11年3月中旬	日程については、別途お知らせ します。
博士學位論文（本製本）提出	令和11年3月31日	[提出先] 学生サポートオフィス (教務学生課)

2. 博士學位論文提出資格

大学院研究科の博士(後期)課程に2年以上在学し、必要な研究指導を受けていなければなりません。

ただし、大学院教授会が認めた場合は、1年次で提出することができますが、手続きについては指導教員に相談して下さい。

3. 博士學位論文題目届について

論文提出予定者に、教務学生課より「博士學位論文題目届」を配布しますので、作成後、指導教員の承認を得てから提出して下さい。題目に変更が生じた場合は、指定の期日までに題目変更届を作成し、指導教員の承認を得てから提出して下さい。

4. 博士学位論文（仮製本）の提出について

(1) 提出物および部数

- ① 博士学位論文：正本1部、副本2部
- ② 論文内容要旨：3部（論文の巻頭に綴じ込み）
※上記の提出部数は、論文審査委員が3名（主査1名、副査2名）の場合で、4名以上の場合は副本と要旨の部数を増やして提出して下さい。
- ③ 履 歴 書：1部（所定様式）
- ④ 論 文 目 録：1部（所定様式）
- ⑤ 東北工業大学学術リポジトリ公表申請書（博士学位論文）：1部（所定様式）
※論文中に他者の著作物が含まれる場合は、事前にその権利者から同意を得て下さい。
（著作権に関しては、図書館に相談して下さい。）
※論文中に共同研究者・共著者の論文を使用する場合は、事前に許諾を得る必要がありますので、予め共同研究者・共著者に確認し、承諾を得て下さい。

(2) 体裁等

〔博士学位論文〕

- ① 教務学生課より配布する表紙を使用し、表面に論文題目、専攻、学生番号、氏名を記載して下さい。裏面は、学生記入欄について所定事項を記入して下さい。
- ② 仕様体裁はA4判用紙を縦型に使用し、文字は横書きとして下さい。
- ③ 左側に余白2.5cmを設けて印刷して下さい。
- ④ 副本は複写で可とします。
- ⑤ 論文に写真、統計図表、図版、製図等を添付する必要がある場合には、台紙に貼付、或は折り込みをする等、全てA4判大に仕上げして下さい。
- ⑥ 論文には下部中央部に通しページ番号を付して下さい。
- ⑦ 表紙、本文など論文一式を綴り紐で綴じて提出して下さい。
- ⑧ 提出された論文は大学で製本します。

〔論文内容要旨〕 P.31 参照

- ① 教務学生課より配布する表紙を使用し、論文題目（英文題目を併記）、専攻名、指導教員名、学生番号、氏名を記載して下さい。
- ② 仕様体裁はA4判用紙を縦型に使用し、文字は横書き、文字数は200～400ワード程度の英文アブストラクトを含む、8,000字～12,000字程度として下さい。（総ページは様式見本の4～6ページ程度で図面等を含みます。）
- ③ 左側に余白2.5cmを設けて、片面印刷して下さい。
- ④ 論文内容要旨が複数枚に及ぶ場合は、下部中央部に通しページ番号を付して下さい。
- ⑤ 論文内容要旨は、論文の巻頭に綴じ込みして下さい。

5. 博士学位論文（データ）の提出について

博士学位論文（全文・要旨）は、学位規程第 19 条並びに第 20 条に基づき、東北工業大学学術リポジトリに掲載します。

また、大学で製本を行い、本学図書館にて永久保存します。

- ① データは、PDF で提出して下さい。
- ② ファイル名は、以下のとおりとして下さい。
 - ・博士学位論文（全文）
「課・研究科・専攻名・氏名・博士学位論文全文.pdf」
 - ・博士学位論文（要旨）
「課・研究科・専攻名・氏名・博士学位論文要旨.pdf」

※課程博士の場合は「課」、論文博士の場合は「論」として下さい。
※研究科で工学研究科の場合は「工」、建築学研究科の場合は「建」、ライフデザイン学研究科の場合は、「LD」として下さい。
※専攻名は、正式な専攻名を記載して下さい。（略して記載しない）
- ③ 「やむを得ない事由」により、インターネットでの全文公表をしない場合、研究科長の承認を得て、論文の内容を要約したものを公表することができますので、予め指導教員および教務学生課まで相談して下さい。
なお、その場合も、学位論文全文データの提出は必要です。
ただし、「やむを得ない事由」がなくなった場合には、全文を公表する必要があります。
※「やむを得ない事由」
 - ・立体形状による表現を含んでいる
 - ・著作権保護や個人情報等に係る制約がある
 - ・出版刊行（多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載も含む）の予定がある
 - ・特許申請している情報又は特許申請を予定している情報が含まれている
 - ・その他

データの提出方法については、別途、教務学生課よりお知らせします。

東北工業大学学位規程（抄）

（趣 旨）

第1条 学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条第1項の規定に基づき、東北工業大学（以下「本学」という。）が授与する学位については、東北工業大学学則（昭和39年1月25日制定）及び東北工業大学大学院学則に定めるもののほか、この規程に定めるところによる。

（学位の種類）

第2条 本学において授与する学位は、学士、修士及び博士とする。

2 学士、修士及び博士の学位を授与するに当たっては、専攻分野を付記し、学士（工学・建築学・デザイン・ライフデザイン・経営学）、修士（工学・建築学・デザイン工学）及び博士（工学・建築学・デザイン工学）とする。

（学士の学位授与の要件）

第3条 学士の学位は、本学を卒業した者に授与する。

（修士の学位授与の要件）

第4条 修士の学位は、本大学院博士課程前期2年の課程（以下「博士(前期)課程」という。）を修了した者に授与する。

（博士の学位授与の要件）

第5条 博士の学位は、本大学院博士課程後期3年の課程（以下「博士(後期)課程」という。）を修了した者に授与する。

2 前項に定めるもののほか、博士の学位は、博士課程を経ない者であっても、博士論文の審査に合格し、かつ、博士課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された場合は、これを授与することができる。

（修士学位論文の提出）

第6条 博士(前期)課程の学位論文（以下「修士論文」という。）を提出しようとする者は、別途指示する期日までに、論文1編（正本1部、副本2部）と論文の内容要旨を指導教授又は指導准教授（以下「指導教員」という。）を通じて、研究科長に提出するものとする。

2 研究科長は、修士論文を受理したときは、学位を授与できる者か否かについて、大学院教授会の審査に付さなければならない。

（博士学位論文の提出）

第7条 博士(後期)課程の学位論文（以下「博士論文」という。）を提出しようとする者は、別途指示する期日までに、論文1編（正本1部、副本2部）と論文の内容要旨を指導教員を通じて、研究科長に提出するものとする。

2 研究科長は、博士論文を受理したときは、学位を授与できる者か否かについて、大学院教授会の審査に付さなければならない。

3 博士論文を提出しないで退学した者のうち、後期課程に3年以上在学し、必要な研究指導を受けた者は、退学した日から起算して1年以内に限り、博士論文を提出することができる。学位論文審査手数料については、別表第1に定めるとおりとする。

（大学院の課程を経ない者の学位授与申請）

第8条 第5条第2項の規定により学位の授与を申請する者は、学位申請書に博士論文、履歴書、論文目録、論文内容要旨及び学位論文審査手数料（別表第1）を添え、研究科長に提出しなければならない。

2 研究科長は、前項の申請を受理したときは、学位を授与できる者か否かについて、大学院教授会の審査に付さなければならない。

（学位論文）

第9条 第6条第1項、第7条第1項及び前条第1項に規定する修士論文又は、博士論文は1編に限る。ただし、参考として、他の論文を添付することができる。

2 審査のため、論文の訳文、模型又は標本等の材料を提出させることがある。

(博士論文及び学位論文審査手数料の返付)

第10条 受理した博士論文及び学位論文審査手数料は、いかなる理由があっても返付しない。

(論文審査委員会)

第11条 大学院教授会は、第6条第2項、第7条第2項及び第8条第2項の規定により修士論文又は博士論文が審査に付されたときは、論文審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置し、修士論文又は博士論文の審査及び最終試験又は学力確認の審査を行わせるものとする。

2 審査委員会は、学位論文を提出した学生が専修する基礎となる専攻及び当該学位論文の内容と関連する大学院担当教員のうちから、指導教員を含む2人以上の審査委員をもって組織する。又第8条第2項の学位論文の審査委員は当該学位論文の内容と関連する大学院担当教員のうちから、2人以上の審査委員をもって組織する。

3 審査委員会には、審査委員の互選による主査1人を置く。

4 大学院教授会は、必要と認めたときは、第2項の規定にかかわらず、他の大学院又は研究所等の教員等に学位論文の審査を委嘱することができる。

(最終試験)

第12条 最終試験は、前条の審査委員会が学位論文を中心として、これに関連ある科目にわたって試問の方法によって行う。

2 前項の試問は口答による。ただし、筆記試験もあわせて行うことができる。

3 学位論文の審査の結果その内容が著しく不良であると認めたときは、最終試験又は学力確認を行わない場合がある。

(学力確認の方法)

第13条 学力の確認は、学位論文に関連ある専攻分野の科目及び外国語について行うものとする。

2 学力の確認は、前項の規定にかかわらず、大学院教授会が特別の理由があると認めた場合は、学位論文に関連ある専攻分野の科目についてのみ行い、又は別に定めるところにより行うことができる。

(審査期間)

第14条 第6条第2項及び第7条第2項による学位論文の審査及び最終試験は、在学期間中にこれを終了するものとする。

2 第8条第2項による学位論文の審査及び学力の確認は、学位授与の申請を受理した後1年以内に、学位を授与できる者か否かを審議できるよう終了しなければならない。ただし、特別の理由があるときは、大学院教授会の議を経て、その期間を延長することができる。

(審査委員会の報告)

第15条 審査委員会は、修士学位論文の審査及び最終試験が終了したときその結果を、大学院教授会に文書で報告しなければならない。

2 審査委員会は、博士学位論文の審査及び最終試験又は学力確認を終了したときは、その結果の要旨に学位を授与できるか否か意見を添え、大学院教授会に文書で報告しなければならない。

3 審査委員会は、第12条第3項により最終試験又は学力確認を行わない場合には、前項の定めにかかわらず最終試験又は学力確認の要旨を添付することを要しない。

(大学院教授会の審議)

第16条 大学院教授会は、前条の報告に基づいて審議し学位を授与すべきか否かを審議する。

2 前項の審議には、本大学院学則第27条第2項の規定にかかわらず、委員総数の3分の2以上の出席を必要とする。ただし、校務、休職及び6か月以上にわたる長期欠勤中の者は、この定足数に加えない。

3 学位を授与しうるものとする判断には、出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。

(審査結果の報告)

第17条 大学院教授会において、学位を授与できる者と判断されたときは、研究科長は、学位論文の審査及び最終試験又は学力確認の結果の要旨等を学長に報告しなければならない。

2 大学院教授会において、第5条第2項の規定により学位の授与を申請した者に対して、学位を授与できない者と判断されたときは、研究科長は、博士論文の審査及び学力の確認の結果の要旨を学長に

報告しなければならない。ただし、第12条第3の規定により学力の確認を行わないときは、その確認の結果の要旨は、報告することを要しない。

(学位の授与)

第18条 学長は、本学を卒業した者に学士の学位を授与し、学位記を交付する。

2 学長は、前条第1項の規定による報告に基づいて、学位を授与するものとする。

3 学長は、前条第2項の規定による報告に基づいて、その旨本人に通知するものとする。

(論文要旨等の公表)

第19条 学長は、博士の学位を授与したときは、学位を授与した日から3か月以内にその論文の内容の要旨及び論文審査結果の要旨をインターネットの利用により公表するものとする。

(学位論文の公表)

第20条 博士の学位を授与された者は、授与された日から1年以内に、当該博士論文の全文を公表しなければならない。ただし、学位を授与される前に公表したときは、この限りではない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない理由がある場合には、研究科長の承認を受けて当該博士論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、研究科長は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供しなければならない。

3 博士の学位を授与された者が行う第1項及び第2項の規定による公表は、インターネットの利用により行うものとする。

4 第1項の規定により公表する場合は、当該博士論文に「東北工業大学審査学位論文(博士)」と、第2項の規定により公表する場合は、当該博士論文の要旨に「東北工業大学審査学位論文(博士)の要旨」と明記しなければならない。

(報告)

第21条 学長は、博士の学位を授与したときは、当該学位を授与した日から3か月以内に学位授与報告書を文部科学大臣に提出するものとする。

(学位の名称の使用)

第22条 学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、東北工業大学と付記するものとする。

(学位授与の取消)

第23条 学長は、学位を授与された者が、次の各号の1に該当するときは、大学院教授会の議を経て、既に授与した学位を取り消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

(1) 不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき。

(2) 学位を授与された者がその名誉を汚辱する行為を行ったとき。

2 前項の審議については、第16条第2項及び第3項の規定を準用する。

(学位記及び書類)

第24条 学位記及び学位授与申請関係書類の様式は、別記様式第1号から別記様式第7号のとおりとする。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

(略)

附 則

令和7年3月31日改正

この規程は、令和7年4月1日から施行する。

教務補助員（T A）について

教務補助員は、大学院の学生が、学部学生等に対する助言や実験、実習、演習等の教育補助等を行い、手当を支給する制度です。これは、大学院学生が将来、教員・研究者になるためのトレーニングの機会として、また、経済的に支援するために行なっています。

〈対象者〉

大学院博士(前期・後期)課程に在学する学生

〈手当および勤務時間〉

1時間の勤務に対して時給 1,250 円

週8時間以内かつ年 240 時間以内

〈雇用期間〉

前期 4月～9月

後期 10月～3月

※ただし、休学期間は除く

リサーチ・アシスタント（R A）について

この制度は、本学で実施する研究課題等に取り組むために編成される研究組織に、研究補助者として参画し、研究活動の効果的推進、若手研究者としての研究遂行能力の育成を図るために行なっています。

〈対象者〉

大学院博士(前期・後期)課程に在学する学生

〈手当及び勤務時間〉

1時間の勤務に対して時給 1,250 円

月 20 時間を超えない範囲での勤務を行なう

〈雇用期間〉

博士(前期)課程 4月～3月

博士(後期)課程 4月～3月

※ただし、休学期間は除く

大学院長期履修制度について

長期履修制度とは、職業を有している等の事情により標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修する制度です。

申請希望の方は、学生サポートオフィス（教務学生課）までお問い合わせください。

奨学金制度について

大学院学生のために、日本学生支援機構奨学金制度と東北工業大学大学院奨学生制度があります。

[日本学生支援機構奨学生]

日本学生支援機構奨学金制度の出願資格は、人物・学業ともに特に優れ、かつ健康であって、大学院において研究を継続するには、日本学生支援機構奨学金の貸与が必要であると認められた者に限り、学長名により奨学生として推薦されます。

奨学金は授業料後払い制度（無利子）、第一種奨学金（無利子）、第二種奨学金（有利子）の3種類あります。

（令和8年1月現在）

項目	授業料後払い制度（無利子）	第一種奨学金（無利子）	第二種奨学金（有利子）
募集期	原則、毎年4月に募集		
貸与月額	博士（前期）課程のみ 授業料支援金： 776,000円（年間） 生活費奨学金： 月額2万円、4万円 から選択 （受けないことも可） ※授業料支援金は大学へ直接振込 ※返還時は保証料相当額も含めて返還が必要	博士（前期）課程： 50,000円・88,000円 より選択 博士（後期）課程： 80,000円・122,000円 より選択	50,000円・80,000円・ 100,000円・130,000円・ 150,000円より選択
返還方法	所得連動返還方式	定額返還方式か 所得連動返還方式を選択	定額返還方式

また、第一種・第二種奨学金申込者で一定の条件を満たしている方は、希望により入学時特別増額貸与（有利子貸与、貸与月額の初回振込み時に10万円・20万円・30万円・40万円・50万円の中から希望する金額を増額して貸与）を申込みことができます。ただし、申込みは入学時の一度限りで、入学時特別増額のみを申込みことはできません。

[東北工業大学同窓会貸与奨学金]（博士(前期)課程2年生在学学生対象）

東北工業大学同窓会貸与奨学金制度は、同窓会奨学金実施要領により、2年生前期までの学費が納入済で、修了に要する修得単位数の取得が見込まれ、かつ就職先が内定している学生に対し、2年生後期末納学費相当額を無利子で貸与するものです。

貸与奨学生数は、全専攻から1名です。

なお、その他詳細については、学生サポートオフィス（教務学生課）に相談してください。

[留学生対象]

外国人留学生に対する奨学金は各団体からの推薦依頼により紹介します。申請には専攻長からの推薦が必要となることがあります。

なお、詳細については学生サポートオフィス（教務学生課）にお問い合わせください。

東北工業大学大学院外国人留学生の奨学金受給状況（令和7年度実績）

団体	給付金額 / 月額
（一財）東北開発記念財団	80,000円
（公財）亀井記念財団 外国人留学生奨学金	60,000円

留学プログラム・海外奨学金について

【留学・国際交流の体験のすすめ】

本学は現在、21校と学術交流協定を締結しており、学生の国際的な学びを積極的に支援しています。より多くの学生に「今しかできない貴重な体験」をしてほしいと考え、さまざまな留学プログラムを提供しています。

本学の主な留学プログラムは以下のとおりです。

派遣国	プログラム名	時期（期間）	支援の内容
台湾	中原大学春期中国語・文化研修	3月（3週間）	一部補助
タイ	泰日工業大学サマープログラム	8月（10日間）	一部補助
	泰日工業大学クロスカルチャー・プログラム	3月（10日間）	一部補助
カナダ	センテニアルカレッジ ELLプログラム	9月（4週間）	一部補助
イギリス	ロンドン大学 SOAS SOAS サマー・スクール	8月～9月（3週間）	一部補助
	ELC 短期留学派遣	8月～9月（3週間または2週間）	一部補助

【海外留学支援制度】

制度名	要件	支援内容
トビタテ！留学 JAPAN 新・日本代表プログラム【大学生等対象】 https://tobitate-mext.jasso.go.jp/	学生が自分で計画した海外留学を官民労働で支援。学問・文化体験・インターンなど幅広く、期間は数週間から1年程度。	給付奨学金 ※金額は地域や家計基準により異なる
日本学生支援機構 第二種奨学金（海外） https://www.jasso.go.jp/shogakukin/about/kaigai/2shu_kaigai/about.html	学位取得を目的に、海外の大学・大学院へ進学を希望する人、または海外の大学・大学院に在学中の人を対象とした貸与奨学金。	貸与奨学金（有利子） 2万円～15万円の選択制

大学院科目等履修生について

正規の学生以外の方が博士(前期)課程の授業科目(認められたものに限り)を履修することができます。試験に合格すれば単位の修得が可能ですので、様々な資格の取得を目指す方や、特定の領域の教養を高めたい方などに利用されています。

1 入学資格

- (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者
- (2) 本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

2 出願手続

志願者は、履修しようとする授業科目担当教員の承認を受けた上で、次の書類に検定料を添えて、学生サポートオフィス(教務学生課)に提出して下さい。

- (1) 入学願書及び履歴書(本学所定用紙)
- (2) 最終出身学校の卒業証明書または修了証明書
- (3) 〃 成績証明書
- (4) 健康診断書
- (5) 入学検定料26,000円(本学卒業者は免除します。)
- (6) 勤務している場合は、所属長の承諾書
- (7) 本邦に在留している外国人は、外国人登録済証明書

3 出願期間

- (1) 履修期間が前期から始まる場合…2月末日まで
- (2) 〃 後期 〃 …6月末日まで

4 選考の方法

出願書類等により選考します。

5 入学手続

入学手続の詳細は、合格通知書とともに送付する入学手続要領に従って下さい。なお、所定の期日までに入学手続を完了しない場合は、入学を許可しません。

6 入学金等納付金

納付する学費は下表の通りです。

	本学卒業生	本学以外の入学者
入学金	—	57,000円
授業料1単位につき	17,000円	17,000円

7 その他

- (1) 入学時期は学年または学期の初めとし、在学期間は6ヶ月または1年とします。
- (2) 身分証明書を発行致します。
- (3) 証明を希望するときは、履修証明書または単位修得証明書を発行します。(有料1通200円)
- (4) 科目等履修生には「学割」の発行は認められていません。
- (5) 科目等履修生は、正課、研究活動、課外活動及び大学主催の行事に参加している間に事故が起きた場合に保証する制度「学生教育研究災害傷害保険」と、国内外において、正課、学校行事、課外活動またはその往復において、他人にケガを負わせた場合、他人の財物を損壊した場合に保証する制度「学生教育賠償責任保険」に加入することができます。加入希望者は学生サポートオフィス(教務学生課)にお問い合わせ下さい。
- (6) 受理した書類及び入学検定料・入学金・授業料は、いかなる理由があっても返還できません。
- (7) 不明な点は学生サポートオフィス(教務学生課)にお問い合わせ下さい。

大学院研究生について

学位の取得を目的としないで特定の専門領域について研究するために、一定期間大学に在籍し、指導教員の指導のもとに研究を行います。

1 入学資格

- (1) 大学院修士課程を修了した者
- (2) 本大学院において、前号と同等以上の学力があると認めた者

2 出願手続

志願者は、研究しようとする研究題目について、専攻長及び指導教員の承認を受けた上で、次の書類に入学検定料を添えて、学生サポートオフィス（教務学生課）に提出して下さい。

- (1) 入学願書及び履歴書（本学所定用紙）
- (2) 最終出身学校の修了証明書または卒業証明書
- (3) 健康診断書
- (4) 入学検定料 26,000 円
- (5) 勤務している場合は、所属長の承諾書
- (6) 本邦に在留している外国人は、外国人登録済証明書

3 出願期間

原則として入学志願の年の2月末日までに出願して下さい。入学の時期は、学期の初めとします。ただし、特別の事情により学期の途中で入学を志願する場合は、希望する入学日の1か月前までに出願して下さい。

4 選考の方法

出願書類等により選考します。

5 入学手続

入学手続の詳細は、合格通知書とともに送付する入学手続要領に従って下さい。なお、所定の期日までに入学手続を完了しない場合は、入学を許可しません。

6 入学金等納付金

納付する学費は下表の通りです。

	本大学院修了生	本大学院以外の入学者
入学金	-	57,000 円
研究料（月額）	57,000 円	57,000 円

7 その他

- (1) 研究生の在学期間は、原則1年とします。ただし、特別の事由があると認められた場合は、在学期間の延長または短縮を許可することがあります。この場合は、所定の「研究生在学期間変更願」を在学期間の終了する1か月前までに学生サポートオフィス（教務学生課）に提出して下さい。
- (2) 身分証明書を発行いたします。
- (3) 証明を希望するときは、「研究内容証明書」を発行します。（有料 1通 200 円）
- (4) 研究生には「学割」の発行は認められていません。
- (5) 研究生は、正課、研究活動、課外活動及び大学主催の行事に参加している間に事故が起きた場合に保証する制度「学生教育研究災害傷害保険」と、国内外において、正課、学校行事、課外活動またはその往復において、他人にケガを負わせた場合、他人の財物を損壊した場合に保証する制度「学生教育賠償責任保険」に加入することができます。加入希望者は学生サポートオフィス（教務学生課）にお問い合わせ下さい。
- (6) 受理した書類及び入学検定料・入学金・研究料は、いかなる理由があっても返還できません。
- (7) 不明な点は学生サポートオフィス（教務学生課）まで問い合わせして下さい。

大学院授業担当教員一覧

●印は指導教員
○印は研究補助及び授業担当
空欄は授業担当

【工学研究科】 研究科長：佐 藤 篤

電気電子システム工学専攻 (専攻長：柴 田 憲 治)

研究指導 教員	氏 名	職 名	学 位	担 当 科 目
●	柴 田 憲 治	教 授	博士(理学)	電気電子システム工学専攻前期課程研修、電子物性学特論
●	伊 藤 仁	教 授	博士(工学)	電気電子システム工学専攻前期課程研修、計測回路工学特論
●	加 藤 善 大	教 授	博士(工学)	電気電子システム工学専攻前期課程研修、環境材料化学特論
●	佐 藤 篤	教 授	博士(工学)	電気電子システム工学専攻前期課程研修、光波工学特論、研究のプロセス事例紹介
●	下 位 法 弘	教 授	博士(工学)	電気電子システム工学専攻前期課程研修、エネルギーデバイス・システム工学特論
●	田 河 育 也	教 授	工学博士	電気電子システム工学専攻前期課程研修、磁気材料・デバイス特論
●	田 村 英 樹	教 授	博士(工学)	電気電子システム工学専攻前期課程研修、超音波エレクトロニクス特論
●	中 山 英 久	教 授	博士(情報科学)	電気電子システム工学専攻前期課程研修、機械学習特論
●	藤 田 豊 己	教 授	博士(工学)	電気電子システム工学専攻前期課程研修、ロボット工学特論、研究のプロセス事例紹介
●	水 野 文 雄	教 授	博士(工学)	電気電子システム工学専攻前期課程研修、メカトロニクス特論
●	宮 下 哲 哉	教 授	工学博士	電気電子システム工学専攻前期課程研修、画像電子工学特論
●	室 山 真 徳	教 授	博士(工学)	電気電子システム工学専攻前期課程研修、組み込みシステム工学特論
○	新 井 敏 一	教 授	博士(理学)	電気電子システム工学専攻前期課程研修、応用代数特論、熱・統計力学特論
○	小野寺 敏 幸	教 授	博士(工学)	電気電子システム工学専攻前期課程研修、化合物半導体特論
○	佐 藤 智 之	教 授	博士(工学)	電力ネットワーク工学特論
○	田 倉 哲 也	准 教 授	博士(工学)	電気電子システム工学専攻前期課程研修、エネルギー伝送工学特論
	穴 澤 正 宏	教 授	博士(理学)	応用解析特論
	木 戸 博	教 授	博士(工学)	多変量解析特論
	工 藤 栄 亮	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介、情報系インターンシップ
	小 林 正 樹	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	佐 藤 善 之	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	佐 野 哲 也	准 教 授	博士(環境学)	R統計解析特論
	曹 森	准 教 授	博士(工学)	建築AIデータサイエンス特論
	北 條 俊 昌	准 教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	八 卷 俊 輔	准 教 授 (AI教育推進室)	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	グエン・ヴァン・ドゥック	講 師	博士(コンピュータ理工学)	深層学習特論
	サイモン クック	教 授	博士(情報科学)	大学院の英語Ⅰ、大学院の英語Ⅱ
	青 柳 重 夫	非常勤講師	博士(学術)	研究倫理・研究リテラシー、知財・マネジメント

情報通信工学専攻 (専攻長：角 田 裕)

研究指導 教員	氏 名	職 名	学 位	担 当 科 目
●	角 田 裕	教 授	博士(情報科学)	情報通信工学専攻前期課程研修、インターネット工学特論
●	穴 澤 正 宏	教 授	博士(理学)	情報通信工学専攻前期課程研修、応用解析特論
●	袁 巧 微	教 授	工学博士	情報通信工学専攻前期課程研修、電磁波工学特論
●	河 野 公 一	教 授	博士(情報科学)	情報通信工学専攻前期課程研修、衛星画像解析特論
●	木 戸 博	教 授	博士(工学)	情報通信工学専攻前期課程研修、多変量解析特論
●	工 藤 栄 亮	教 授	博士(工学)	情報通信工学専攻前期課程研修、無線通信システム特論、研究のプロセス事例紹介、情報系インターンシップ
●	鈴 木 健 一	教 授	博士(情報科学)	情報通信工学専攻前期課程研修、コンピュータアーキテクチャ特論
●	富 田 勲	教 授	博士(理学)	情報通信工学専攻前期課程研修、光通信システム特論
●	中 川 朋 子	教 授	理学博士	情報通信工学専攻前期課程研修、環境電磁工学特論
●	三 浦 直 樹	教 授	博士(工学)	情報通信工学専攻前期課程研修、認知工学特論
○	松 田 勝 敬	教 授	博士(工学)	情報通信工学専攻前期課程研修、情報ネットワーク特論
○	井 上 雅 史	准 教 授	博士(理学)	情報通信工学専攻前期課程研修、インタラクション工学特論
○	北 元	准 教 授	博士(理学)	情報通信工学専攻前期課程研修、宇宙空間計測学特論
○	縄 田 耕 二	准 教 授	博士(工学)	情報通信工学専攻前期課程研修、テラヘルツ工学特論
○	八 卷 俊 輔	准 教 授 (AI教育推進室)	博士(工学)	情報通信工学専攻前期課程研修、デジタル信号処理特論、研究のプロセス事例紹介
○	グエン・ヴァン・ドゥック	講 師	博士(コンピュータ理工学)	情報通信工学専攻前期課程研修、深層学習特論
	新 井 敏 一	教 授	博士(理学)	応用代数特論
	小 林 正 樹	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	佐 藤 篤	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	佐 藤 善 之	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	中 山 英 久	教 授	博士(情報科学)	機械学習特論
	藤 田 豊 己	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	佐 野 哲 也	准 教 授	博士(環境学)	R統計解析特論
	曹 淼	准 教 授	博士(工学)	建築A I データサイエンス特論
	北 條 俊 昌	准 教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	サイモン クック	教 授	博士(情報科学)	大学院の英語 I、大学院の英語 II
	青 柳 重 夫	非常勤講師	博士(学術)	研究倫理・研究リテラシー、知財・マネジメント

都市工学専攻（専攻長：権 永 哲）

研究指導 教員	氏 名	職 名	学 位	担 当 科 目
●	権 永 哲	教 授	博士(工学)	都市工学専攻前期課程研修、地盤工学特論
●	小 出 英 夫	教 授	工学博士	都市工学専攻前期課程研修、鉄筋コンクリート工学特論
●	近 藤 祐一郎	教 授	博士(学術)	都市工学専攻前期課程研修、都市環境学特論
●	山 田 一 裕	教 授	博士(工学)	都市工学専攻前期課程研修、環境影響評価特論
●	山 田 真 幸	教 授	博士(工学)	都市工学専攻前期課程研修、構造解析学特論
●	小 野 桂 介	准 教 授	博士(工学)	都市工学専攻前期課程研修、水文学特論
●	佐 野 哲 也	准 教 授	博士(環境学)	都市工学専攻前期課程研修、緑地環境科学特論、R統計解析特論
●	泊 尚 志	准 教 授	博士(工学)	都市工学専攻前期課程研修、Advanced Infrastructure Planning
●	北 條 俊 昌	准 教 授	博士(工学)	都市工学専攻前期課程研修、環境衛生工学特論、研究のプロセス事例紹介
●	河 井 正	教 授	博士(工学)	都市工学専攻前期課程研修
●	菊 池 輝	教 授	博士(工学)	都市工学専攻前期課程研修、交通行動分析
○	菅 原 景 一	准 教 授	博士(工学)	都市工学専攻前期課程研修、河海水理学特論
	穴 澤 正 宏	教 授	博士(理学)	応用解析特論
	新 井 敏 一	教 授	博士(理学)	応用代数特論
	木 戸 博	教 授	博士(工学)	多変量解析特論
	工 藤 栄 亮	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介、情報系インターンシップ
	小 林 正 樹	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	佐 藤 篤	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	佐 藤 善 之	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	中 山 英 久	教 授	博士(情報科学)	機械学習特論
	藤 田 豊 己	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	曹 淼	准 教 授	博士(工学)	建築A I データサイエンス特論
	八 卷 俊 輔	准 教 授 (AI教育推進室)	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	グエン・ヴァン・ドゥック	講 師	博士(コンピュータ理工学)	深層学習特論
	サイモン クック	教 授	博士(情報科学)	大学院の英語 I、大学院の英語 II
	青 柳 重 夫	非常勤講師	博士(学術)	研究倫理・研究リテラシー、知財・マネジメント
	高 橋 凌 太	非常勤講師	修士(工学)	空間情報工学特論

バイオ情報・応用化学専攻 (専攻長：内田 美穂)

研究指導 教員	氏名	職名	学位	担当科目
●	内田 美穂	教授	博士(工学)	バイオ情報・応用化学専攻前期課程研修、環境測定分析特論
●	葛西 重信	教授	博士(工学)	バイオ情報・応用化学専攻前期課程研修、生物電気化学特論
●	辛島 彰洋	教授	博士(情報科学)	バイオ情報・応用化学専攻前期課程研修、生体情報工学特論
●	小林 正樹	教授	博士(工学)	生体医用光学特論、研究のプロセス事例紹介
●	佐藤 善之	教授	博士(工学)	バイオ情報・応用化学専攻前期課程研修、化学工学特論、研究のプロセス事例紹介
●	鈴木 郁郎	教授	博士(学術)	バイオ情報・応用化学専攻前期課程研修、神経科学特論
●	丸尾 容子	教授	博士(工学)	バイオ情報・応用化学専攻前期課程研修、多孔表面化学特論
○	多田 美香	准教授	博士(工学)	バイオ情報・応用化学専攻前期課程研修、生体機能工学特論
	穴澤 正宏	教授	博士(理学)	応用解析特論
	新井 敏一	教授	博士(理学)	応用代数特論
	加藤 善大	教授	博士(工学)	環境材料化学特論
	木戸 博	教授	博士(工学)	多変量解析特論
	工藤 栄亮	教授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介、情報系インターンシップ
	佐藤 篤	教授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	中山 英久	教授	博士(情報科学)	機械学習特論
	藤田 豊己	教授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	山田 一裕	教授	博士(工学)	環境影響評価特論
	佐野 哲也	准教授	博士(環境学)	R統計解析特論
	曹 森	准教授	博士(工学)	建築A I データサイエンス特論
	北條 俊昌	准教授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	八巻 俊輔	准教授 (AI教育推進室)	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	グエン・ヴァン・ドゥック	講師	博士(コンピュータ理工学)	深層学習特論
	サイモン クック	教授	博士(情報科学)	大学院の英語 I、大学院の英語 II
	青柳 重夫	非常勤講師	博士(学術)	研究倫理・研究リテラシー、知財・マネジメント

【建築学研究科】 研究科長：船 木 尚 己

建築学専攻（専攻長：福 屋 粧 子）

研究指導 教員	氏 名	職 名	学 位	担 当 科 目
●	福 屋 粧 子	教 授	修士(工学)	建築学専攻前期課程研修、建築意匠特論、建築設計実務演習
●	新 井 信 幸	教 授	博士(学術)	建築学専攻前期課程研修、住宅計画特論
●	石 井 敏	教 授	博士(工学)	建築学専攻前期課程研修、施設計画特論
●	鍵 屋 浩 司	教 授	博士(工学)	建築学専攻前期課程研修、建築防災計画特論、建築環境設備実務演習
●	河 井 正	教 授	博士(工学)	建築学専攻前期課程研修、地盤工学特論
●	菊 田 貴 恒	教 授	博士(工学)	建築学専攻前期課程研修、コンクリート材料特論、建築ライフサイクルマネジメント
●	菊 池 輝	教 授	博士(工学)	建築学専攻前期課程研修、公共空間と人間行動
●	許 雷	教 授	博士(工学)	建築学専攻前期課程研修、建築設備学特論、建築環境設備実務演習
●	薛 松 濤	教 授	工学博士	建築学専攻前期課程研修、振動基礎論、建築構造実務演習
●	中 村 琢 巳	教 授	博士(工学)	建築学専攻前期課程研修、日本建築史特論、地域環境計画
●	船 木 尚 己	教 授	博士(工学)	建築学専攻前期課程研修、制振構造論、建築構造実務演習
●	堀 則 男	教 授	博士(工学)	建築学専攻前期課程研修、振動解析学、建築構造実務演習
●	渡 邊 浩 文	教 授	博士(工学)	建築学専攻前期課程研修、気候風土と地域・都市特論、建築環境設備実務演習
●	大 石 洋 之	准 教 授	博士(工学)	建築学専攻前期課程研修、建築環境計画特論、建築環境設備実務演習
○	齋 藤 隆 太 郎	准 教 授	博士(工学)	建築学専攻前期課程研修、建築形態論、建築設計実務演習
○	曹 森	准 教 授	博士(工学)	建築学専攻前期課程研修、建築構造実務演習、建築AIデータサイエンス特論
○	錦 織 真 也	准 教 授	修士(美術)	建築学専攻前期課程研修、建築・インテリアデザイン論、建築設計実務演習
○	畑 中 友	講 師	博士(工学)	建築学専攻前期課程研修、制振構造論、建築構造実務演習
	穴 澤 正 宏	教 授	博士(理学)	応用解析特論
	新 井 敏 一	教 授	博士(理学)	応用代数特論
	木 戸 博	教 授	博士(工学)	多変量解析特論
	工 藤 栄 亮	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介、情報系インターンシップ
	小 林 正 樹	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	佐 藤 篤	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	佐 藤 善 之	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	中 山 英 久	教 授	博士(情報科学)	機械学習特論
	藤 田 豊 己	教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	佐 野 哲 也	准 教 授	博士(環境学)	R統計解析特論
	北 條 俊 昌	准 教 授	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	八 卷 俊 輔	准 教 授 (AI教育推進室)	博士(工学)	研究のプロセス事例紹介
	グエン・ヴァン・ドゥック	講 師	博士(コンピュータ理工学)	深層学習特論
	サイモン クック	教 授	博士(情報科学)	大学院の英語 I、大学院の英語 II
	青 柳 重 夫	非常勤講師	博士(学術)	研究倫理・研究リテラシー、知財・マネジメント
	佐 藤 究	非常勤講師	学士(工学)	建築倫理とマネジメント
	田 原 誠	非常勤講師	工学修士	建築環境設備設計

【ライフデザイン学研究科】 研究科長：堀 江 政 広

デザイン工学専攻 (専攻長：畠 山 雄 豪)

研究指導 教員	氏 名	職 名	学 位	担 当 科 目
●	畠 山 雄 豪	教 授	博士(工学)	デザイン工学専攻前期課程研修、地域居住と防災減災
●	梅 田 弘 樹	教 授	工学修士	デザイン工学専攻前期課程研修、デザイン文化論
●	大 沼 正 寛	教 授	博士(工学)	デザイン工学専攻前期課程研修、造家造景特論
●	大 場 真	教 授	博士(地球環境科学)	デザイン工学専攻前期課程研修、地域環境創生論
●	川 島 和 浩	教 授	経営学修士	デザイン工学専攻前期課程研修、経営・会計学特論
●	篠 原 良 太	教 授	工学士	デザイン工学専攻前期課程研修、ビジュアルデザイン特論
●	堀 江 政 広	教 授	博士(情報科学)	デザイン工学専攻前期課程研修、情報メディア論、ソフトウェア開発手法特論
○	岸 本 誠 司	教 授	修士(文化学)	デザイン工学専攻前期課程研修、環境文化論
○	佐 藤 飛 鳥	教 授	博士(経済学)	デザイン工学専攻前期課程研修、地域産業デザイン論
○	古 川 哲 哉	教 授	修士(デザイン工学)	デザイン工学専攻前期課程研修、視覚情報論
○	伊 藤 美由紀	准 教 授	修士(看護学)	デザイン工学専攻前期課程研修、看護支援デザイン論
○	下 總 良 則	准 教 授	学士(芸術) 経営学修士(専門職)	デザイン工学専攻前期課程研修、デザイン経営論
○	高 木 理 恵	准 教 授	博士(工学)	デザイン工学専攻前期課程研修、生活環境性能論
○	谷 本 裕香子	准 教 授	博士(人間科学)	デザイン工学専攻前期課程研修、福祉空間特論
	サイモン クック	教 授	博士(情報科学)	大学院の英語 I、大学院の英語 II
	向 井 康 夫	非常勤講師	博士(農学)	生態環境とサステナビリティ
	両 角 清 隆	非常勤講師	博士(学術)	福祉情報デザイン論

令和8(2026)年度 大学院分野一覧表

<工学研究科>

専攻名	分野	分野長	構成員			
電気電子システム工学専攻	知能ロボティクス分野	藤田 豊己	伊藤 仁	中山 英久	水野 文雄	室山 真徳
	材料デバイス分野	宮下 哲哉	田河 育也	新井 敏一	佐藤 篤	田村 英樹
			柴田 憲治	小野寺敏幸		
環境エネルギー分野	下位 法弘	加藤 善大	佐藤 智之	田倉 哲也		
情報通信工学専攻	情報科学分野	鈴木 健一	穴澤 正宏	松田 勝敬	河野 公一	三浦 直樹
			角田 裕			
	人工知能分野	木戸 博	井上 雅史	八巻 俊輔	グエン・ヴァン・ドゥック	
通信システム分野	工藤 栄亮	中川 朋子	袁 巧微	富田 勲	縄田 耕二	
		北 元				
都市工学専攻	災害レジリエンス科学分野	権 永哲	山田 真幸	小野 桂介	河井 正	菊池 輝
	サステナブル都市デザイン分野	近藤祐一郎	小出 英夫	泊 尚志	菊池 輝	
	環境調和型社会システム分野	菅原 景一	山田 一裕	佐野 哲也	北條 俊昌	
バイオ情報・応用化学専攻	応用化学分野	丸尾 容子	佐藤 善之	内田 美穂	多田 美香	
	生命情報・医工学分野	葛西 重信	小林 正樹	辛島 彰洋	鈴木 郁郎	

<建築学研究科>

専攻名	分野	分野長	構成員			
建築学専攻	建築史・意匠分野	福屋 粧子	中村 琢巳	錦織 真也	齋藤隆太郎	
	建築・都市計画分野	石井 敏	新井 信幸	菊池 輝	齋藤隆太郎	
	建築環境工学分野	許 雷	渡邊 浩文	鍵屋 浩司	大石 洋之	
	建築生産工学分野	菊田 貴恒	畑中 友			
	制振構造学分野	薛 松濤	河井 正	堀 則男	船木 尚己	曹 淼
畑中 友						

<ライフデザイン学研究科>

専攻名	分野	分野長	構成員			
デザイン工学専攻	社会価値創造分野	堀江 政広	梅田 弘樹	川島 和浩	篠原 良太	佐藤 飛鳥
			古川 哲哉	下總 良則		
	地域共創科学分野	畠山 雄豪	大沼 正寛	大場 真	岸本 誠司	伊藤美由紀
高木 理恵			谷本裕香子			

修了後の取得資格

修了後の取得資格

建築学研究科 建築学専攻

【修了後実務経験で得られる資格】

一級建築士の免許登録

修了後、2年間の実務経験で一級建築士の免許登録要件を満たすことができる。なお、平成21（2009）年度以降に大学院に入学した者は、建築学専攻大学院博士前期課程2年間において指定された科目を履修し、修了することで、2年間もしくは1年間の実務経験と認められる。

あ と が き

この大学院学生便覧は、学修に関する事項について編集したものである。

なお、学生生活に関する諸注意、手続き等については、学部学生に対する取り扱いに準ずるので、別冊『CAMPUS LIFE 2026』を参照すること。

発行日	令和8年4月1日
編集・発行	東北工業大学 〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1
e-mail	daigakuin@tohtech.ac.jp
ホームページ	https://www.tohtech.ac.jp/
印刷・製本	郵辨社

